

高雄市要覽



・昭和十一年度・

高
雄
市
要
覽

(昭和十一年版)

昭和十二年二月二十三日印刷
昭和十二年二月二十八日發行

〔非賣品〕

高 雄 市 役 所

高雄市山下町一丁目十七番地

印刷人

濱 田 磯 龜

高雄市山下町一丁目十七番地

印刷所 濱田商店印刷部

高雄市要覽

目次

一	沿革	領臺前	領臺後	地名考	皇室と我高雄	一		
二	地理	位置	地勢	氣象	面積	區制の確立	土地	五
三	戶口	戶數及人口	戶口動靜	職業別戶數				一〇
四	史蹟	名勝	縣社高雄神社	壽山	壽山館	皇太子殿下御登山記念碑	兒玉臺	三
			灣總督壽像	淨水池	杉本音吉氏記念碑	壽山ゴルフリンクス	壽	
			海水浴場	西子灣溫浴場	臨海道路	東球場		

五 市 政 機 關 一 九

 市政機關
 區制の確立と區會の結成
 官吏及吏員

六 財 政 一 三

 豫算
 諸稅及公課

七 社 寺 宗 教 一 〇

 神社
 神道
 佛教
 基督教
 舊慣寺廟

八 教 育 一 四

 學齡兒童
 幼稚園
 小學校
 公學校
 補習學校
 中等學校

九 社 會 教 育 一 五

 圖書館
 少青年團
 青年訓練所
 國語講習所
 各種講習會
 教化

 聯合會
 講演活動寫眞

一〇 社 會 事 業 一 六

 方面委員
 助成會
 職業紹介所
 保健保護教化
 市營住宅方面と戸

數 小公園 公設質舖

一一 產 業.....五

產業生產 農 產 畜 產 屠 畜 林 產 水 產 水產加

工 漁獲仕向地 水產養殖 漁船及乘組員 工產と種類

一二 金 融 貿 易.....七

銀行金融 郵便貯金受拂 信用組合 貿 易 貿易主要品 中央

卸市場 家畜卸市場 小賣市場

一三 保 健 衛 生.....九

醫療機關及分布狀態 傳染病 種 痘 汚物掃除屎尿汲取 屎尿殺

菌池 撒水道下水溝 埋火葬

一四 水 道.....八五

沿 革 給水施設

一五 土 木 及 營 繕.....七

一六 消防機關.....九一

一七 交通.....九三

港勢 高雄港と諸港間航程 定期航路 軍艦入港 船舶入港

小形汽船以下入港 船客の出入

驛勢旅客 鐵道貨物 手小荷物 局勢特種郵便物 貯金及爲替件數

金額 通常郵便物 小包郵便物 電話 郵便函 切手賣捌所

恩給年金簡易保險

一八 官公署其他.....一〇六

官公署學校 銀行會社 組合其他

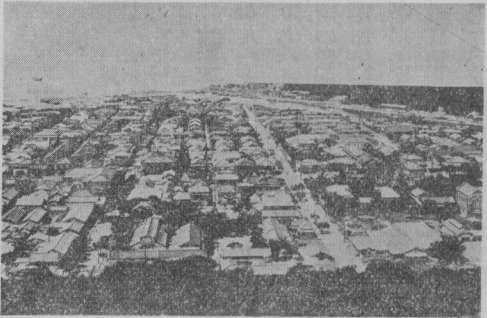
高雄市要覽

第一 沿革

領臺前

高雄は元打狗と稱し又東港に對して西港とも稱へられ遠く三百年前に日

本人の來往せし形跡あり。次いて和蘭人占據時代にはバタビヤ方面との交通ありし點より考へ當時已に港灣としての價値を認められたるは容易に想像し得る所なり。其の後清國の版圖となりし以來南支那方面の汕頭、厦門、香港等を初め上海、天津等との交通は支那民族の移往來往と共に次第に頻繁となり清の咸豐年間即ち西歴一八六〇年頃には基隆、淡水、安平と共に開港場となり、對岸方面との通商一層盛んになりたるも素より大船巨舶の碇泊するに適せず、當時の打狗港は港口に岩礁横はり干満時に於ける潮流又激しきため船舶の出入に危険多く戎克船の如き港口通過の際には盛んに銅鑼を鳴らし、或



高 雄 市 街

は金銀紙を焚いて、只管神佛の加護を祈願せりと傳へられ現状と比較し今昔の感深きものあり。市街も亦當時は僅に港口の兩岸旗後及哨船頭の一角に限られ、陋巷錯雜を極めたる一小市街に過ぎざる状態なりき、明治二十八年八月皇軍當地を占領する爲上村海軍大佐の率ゐる軍艦吉野外數隻と清の守將萬田標の指揮する守備兵との間に砲火を交へたるが數時にして陥落す。

領臺後

領臺當時軍政なりしも明治二十九年四月二十日臺南縣鳳山警察署打狗警察官吏派出所を設置され、翌三十年三月十四日打狗分署、同年六月十日鳳山縣打狗警察署、同三十一年七月九日鳳山辨務署打狗支署、三十四年十一月十七日鳳山廳打狗支



の 一 部

廳、同四十二年十月二十五日臺南廳打狗支廳に改められ、大正九年九月一日地方官々制の改正に依り、高雄州廳竝に高雄郡役所を設置され、次いて同年十月一日地方制度の改正に依り高雄街となり、高雄郡役所の管轄區域に屬したりしが越えて十三年十二月二十五日高雄郡役所の廢止と共に市制を實施し、更に昭和七年十二月一日には行政區域の變更に伴ひ岡山郡左營庄の内前峯尾及桃子園の二大字を編入され今日に至れり。

市街も當時は僅に現今の旗後町及哨船町の港口兩岸に一小街衢を形成し居たるに過ぎず、他は鹹湖狀の淺水游泥地たりしが縦貫鐵道の敷設に當り、之が用地の埋立を施行し、明治四十一年築港工事著手を

見ると、共に第一次市區計畫發表され高雄川以西の海埔、鹽田、魚塭等約五十萬坪の市街地の埋立成りて現在の市街を形成するに至れり、今や港灣も工事著々進捗し二十有餘隻の航洋汽船の碇泊と荷役を同時に爲し得る設備を有し本島北方の門戶基隆と相駢んで南北の二大要港を成し市勢は逐年驚異的に伸展しつゝあり。

地名考

「タカオ」なる稱呼の起源に關する傳説竝に其の別名甚だ多きも元高雄附近に幡居したる平埔蕃「マカツタラ」部族の（タアガウ）社の名より出づと云ふ説眞なるが如く鳳山縣誌及重修臺灣府誌には打鼓港とあり。最近迄打狗と稱へられしが大正九年八月府令第四十八號を以て高雄と改めらる。

皇室と我が高雄の事蹟

曩には打狗と稱したる一小街衢に 閑院宮載仁親王殿下 同妃殿下 北白川宮成久王殿下 久邇宮邦彦王殿下 同妃殿下の御成を仰ぎ越へて高雄街となり。大正十二年四月二十一日畏くも 今上天皇陛下皇太子殿下にましまして頃親しく聖駕を迎へ奉り全街民の光榮今尙新たなる所なり。同十三年十二月二十五日市制を實施し、爾來年を閱すること茲に滿十一年此の間本市の最も光榮とする我皇族殿下

の御成を謹記し奉れば大正十四年六月三日には 秩父宮雍仁親王殿下御渡歐の砌り御成を仰ぎたるを始めとし翌年四月十日には第一艦隊御乗組の高松宮宣仁親王殿下を同年十月三十日北白川宮富子大妃殿下越えて昭和二年十一月十二日朝香宮鳩彦王殿下を翌三年五月八日久邇宮邦彦王殿下を同四年十月二十六日東伏見宮周子妃殿下を昭年六年六月七日賀陽宮恒憲王殿下を同八年七月九日第二艦隊御乗組の伏見宮博義王殿下翌日十日には高松宮宣仁王殿下同日第一艦隊御乗組の久邇宮朝融王殿下の御成を仰ぎ更らに同年九月二十六日には伏見宮博恭王殿下同十月三日には梨本宮守正王殿下の御成を辱ふし重々の光榮に全市民王道無限の惠澤に浴し皇室の彌榮を壽き奉れり。

第二地 理

位 置

本市は高雄州廳の所在地にして南部臺灣唯一の要港を有し、東經一二〇度三七分、北緯二二度三七分即ち高雄州の西部に位し北は岡山郡に東南は鳳山郡に隣り西南一帯は海洋に面し東西一里二九丁南北三里二丁三方里二七の廣袤を有す。

本島の北端基隆を距ること海路二二四哩、鐵路二四九哩一にして母國重要港たる長崎へ八五〇哩、門司へ九五一哩、神戸へ一、〇五四哩、横濱へ一、三五五哩の航程あるに拘らず、南支南洋方面の通商港たる厦門へ一六五哩、福州へ二三四哩、汕頭へ二四〇哩、香港へ三二五哩、廣東へ四〇五哩、「マニラ」へ五五二哩の近距離に位し、南洋諸港は勿論北支方面への通商と相俟つて産業經濟上絶好の位置に在り。

地勢

蜿蜒三里幅員百間内外を有する旗後半島に依りて外海と隔絶されたる入江状の高雄港は市の西北部に屹立する壽山と旗後半島の突端を形成する旗山とに依りて港口を扼し航洋汽船の出入自由なるのみならず、陸上の文化的施設と相俟つて運輸交通至便なるが上に天惠的一大産業地域たる中南部臺灣を後方に控えたる理想的地勢に置かる市内東方一帯に擴がる平野は曹公圳の灌漑地域にして地味肥沃農産豊穰なり。

氣象

本市は北緯二二度三七分の熱帶圈内に所在するを以て直に暑熱の甚しきを聯想するも盛夏の候に於て南部臺灣に恵まれたる涼味に依つて自然に調和され平均氣溫二十四度内外を示し、雨量は常に暑熱期に多くして荷役繁忙期に入りて降雨の稀れな

るは港灣都市として實に惠まれたる一大特長とも謂ふべく風光明媚の健康地なり。

☒ 氣

温

(昭和十年中)

區分	一月		二月		三月		四月		五月		六月		七月		八月		九月		十月		十一月		十二月			
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低		
氣温	一八九	一八九	一九四	一九四	二二七	二二七	二四九	二四九	二六八	二六八	二七七	二七七	二七七	二七七	二六六	二六六	二六五	二六五	二六五	二六五	二四二	二〇三	三五七	三五七	八〇	二四三
温度	七〇三	七〇三	七五八	七五八	七四七	七四七	七七四	七七四	七九三	七九三	八三三	八三三	八四二	八四二	八七七	八七七	八〇二	八〇二	九一	九一	七五三	七五三	八八〇	八八〇	三〇	七九〇
雨量	二九	二九	一四七	一四七	三九三	三九三	一五六	一五六	三四三	三四三	三六一	三六一	八九一	八九一	六八八	六八八	一〇五九	一〇五九	二五九	二五九	〇五	〇七	二〇〇	二〇〇	一	二〇七

面積

本市は元打狗區、苓雅寮區、埤子頭區の三區に大別されしも大正九年十

月一日地方制度の改正に依り高雄街となり。之を高雄、中洲、前鎮、戲獅甲、林德官、過田子、苓雅寮、前金、大港埔、大港、三塊厝及内惟の十二大字に分割せられたるまゝ、大正十三年十二月二十五日市制實施となり、越えて大正十五年一月二十六日町名改正により十四町十一部落に分割され、昭和七年十二月一日行政區域の變更に依り岡山郡左營

庄の内前峯尾及桃子園の二部落を市に編入せられ、廣袤三方里二七(内港及河川を含む)市街を分ちて十四町十三部落に區劃さる現區劃即ち左の如し。

旗後町	平和町	綠町	哨船町	壽町	湊町	新濱町
山下町	田町	鹽埕町	北野町	榮町	堀江町	入船町
中洲	前鎮	戲獅甲	過田子	林德官	苓雅寮	前金
大港埔	大港	三塊厝	内惟	前峯尾	桃子園	

⊠ 土

地

昭和十年末現在

地目	有租地	無租地		計
		官有地	民有地	
田	一五〇・六三九 ^甲	五三・三三七 ^甲	—	一五五四・九六三 ^甲
畑	六九六・〇三六	一六六・〇六六	一・五七七	七二四・二三元
養魚池	六七・四三二	四〇・三六四	—	一〇七・七六五
建物敷地	二七八・九七三	八三・二六五	三五七・〇六八	四〇六・七六一

池	山	原	祠	墓	鐵	燈	鐵	道	溝	用	雜
沼	林	野	地	地	地	地	地	路	渠	路	地
	數	敷	廟	道	臺	道	道	線		惡	種
				用	用	用				水	計

五四、二八七										二七、五二八	二六、三四、八〇七
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	-----------

〇、四〇八五	二八〇、五九六四	四一、八四九三	〇、二七二四	〇、一六〇六	二六、七四九六	〇、五三一五	一〇、七二五四	三〇、四一〇三	二、一九〇三	六四、五二五	二二、〇九五六	六、六八七六六
--------	----------	---------	--------	--------	---------	--------	---------	---------	--------	--------	---------	---------

六〇、五五九七		三九、〇六五六	八、七四二一	五六、一七六四	〇、一三四九			二二、六八四〇	〇、七二三七	一三、六三三九	六、四一六八	二四、三九四六
---------	--	---------	--------	---------	--------	--	--	---------	--------	---------	--------	---------

六〇、九六八二	三三四、八八三六	八〇、九一四九	九、〇一二五	五六、三三七〇	二六、八七四五	〇、五三一五	一〇、七二五四	五二、〇九四三	二、九〇四〇	二〇、〇八六四	五〇、六一一四	三四、九六〇七八
---------	----------	---------	--------	---------	---------	--------	---------	---------	--------	---------	---------	----------

第三 戸 口

戸數及人口

昭和十年末に於ける市内の戸數一八、六九九戸、人口八六、八四八人之を前年末に比すれば戸數に於て一、二二七戸、人口に於て五、二六六人の増加を示し、之等住民は労働者最も多く全戸數の三割三分を占め、商業者の一割二分、農業者一割、漁業者の六分、工業者五分、其の他三割四分の割合にあり。市制實施直後の大正十三年末に於ける戸數九、六八〇戸、人口四二、〇一九人に比較する時滿十一年後の今日戸數に於て十九割三分、人口二十割六厘と言ふ驚異的增加率を示し、市勢の膨脹に伴ひ愈々工業都市として人口は益々激増の趨勢に在り。

◇ 戸數及人口

(昭和十年末)

區	分	内地人	本島人	朝鮮人	支那人	外國人	計
戸	數	五、五六一	一三、三四五	三三	七六	二	一八、六九九

◇職業別戸數

昭和九年	區分	職業別戸數								
		轉出			轉入			死亡		
		計	女	男	計	女	男	計	女	男
一七三三 <small>戸</small>	農業	一、〇六五	五〇九	五五六	一、六六〇	七八二	八七八	八	三	四
九六三 <small>戸</small>	工業	一、四三三	六五三	七九〇	一、八三八	八五〇	九八八	七	四〇	三七
二、二四 <small>戸</small>	商業	一、六五九	七五七	九〇二	一、八八三	八六七	一、〇二六	一三六	六三	六三
一、二〇六 <small>戸</small>	漁業	一、七七六	八六四	九二二	二、二六〇	一、〇六〇	一、二〇〇	一一〇	四七	六三
六、二四三 <small>戸</small>	日傭	一、九三三	九〇三	一、〇二〇	一、九八六	九六三	一、〇三三	一三三	五七	七五
五、〇九四 <small>戸</small>	其他	一、六七九	七八九	八九〇	一、五四三	七〇〇	八四三	一六五	八四	八一
一七、四七二 <small>戸</small>	計	一、六九七	八六一	八三六	一、八九三	八一九	一、〇七四	一五六	六九	八七
		二、六七九	一、二四四	一、五三五	二、二九一	一、〇二七	一、二六四	九八	四六	五三
		三、四六六	一、六〇〇	一、八六六	四、四二一	一九九二	二、四一九	一〇〇	五〇	五〇
		一、〇六七	五〇九	五五八	一、四九二	六五四	八三八	一二五	六七	五八
		一、二七八	五七五	六〇三	一、三三六	五八五	六五一	一二六	五一	六五
		一、〇九三	四四六	六四六	一、三六三	五三三	八三九	一三六	五九	七七
		二、〇七三	九六一〇	一一、一一四	二、三六五	一〇、八三三	一、四三三	一、四三五	六七三	七五三

昭和十年

一八八三

九八六

二四〇三

一三三八

五七三七

六四五三

一八六九九

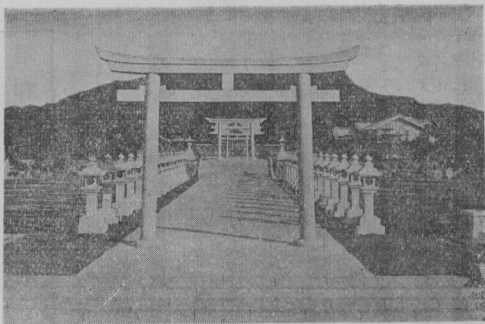
第四 史蹟名勝

縣社高雄神社

市の西北部に屹立する壽山の中腹頗る高潔なる地に鎮座す。境内樹木繁茂し神域の莊嚴と山緑水碧高雄港の内外を一眸に收め得る景勝の地なり。昭和四年四月の造營に係り、大物主尊 崇徳天皇 北白川宮能久親王の三柱を祀り、昭和七年四月二十二日附縣社に列格せられ氏子一市二郡に及ぶ一般の崇敬日に加はり、近時敬神尊皇崇祖の顯はれと共に境内景勝に豊む地として參拜するもの頗る多し。

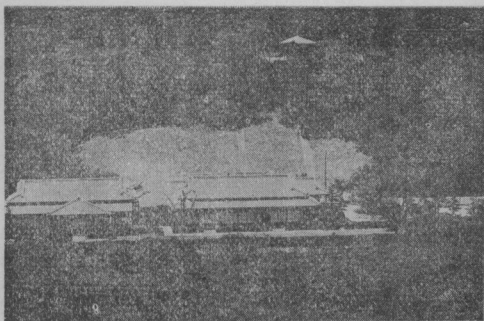
壽山

臺灣八景の一なり市の西北部海岸に屹立する獨立山なり。元高雄山と稱し又猿の棲息多きため外人は之を「エープヒル」とも稱へしが大正十二年四月 皇太子殿下行啓の砌壽山と命名せらる全山珊瑚礁岩より成り奇觀に富み東は屏東平野を隔て、遠く中央連山と對し西は渺茫たる大洋に臨みて近く山脚に白波の碎くるを見南は蜿蜒三里



縣社高雄神社

の旗後半島と其の扼する高雄港の殷賑を瞰下し或は遠く十八湮の洋上に琉球嶼を望み、北は史蹟舊城を隔て、半屏山を指呼の間に眺むることを得即ち壽山の風景美は山岳大洋入江半島河沼田園を一眸に收め得るのみならず、整然たる市街を鳥瞰し街の夜景又美觀此上なく多趣多様な風致美頗る多く、高雄州に於ては森林公園となす計畫の下に着々として人工美を加へられ登山臨海の自動車道も開鑿成り、縣社高雄神社を始めとし、皇太子殿下御登山記念碑、壽山館、兒玉臺灣總督壽像、淨水池、宮の臺、壽の峯、ゴルフリングス、壽海水浴場、西子灣溫浴場等の史蹟名勝は何れも其の沿道に在り全山禁獵區域にして猿、羌仔、穿山甲、竹鷄、其の他の鳥獸數多棲



壽 山 館

息し沿道車上より散見し巡覽約一時間にて足る。

壽山館

壽山の中腹に在り大正十二年四月

皇太子殿下を初め奉り 北白川宮大妃殿下 朝香宮

殿下 久邇大將宮殿下 東伏見宮妃殿下 賀陽宮殿

下 梨本元師宮殿下の御泊所として又秩父宮殿下

高松宮殿下 久邇宮殿下 同妃殿下 伏見元帥宮殿

下の御休憩所に充てさせらるゝ等由緒深き史蹟なり

毎年四月十六日 皇太子殿下行啓記念日に當り全市

民館前に集合 殿下御登山の道筋を辿りて山上御休

憩跡を巡りて下山するを例とす。

皇太子殿下御登山記念碑

大正十二年四月

二十一日本市に行啓あらせられ、翌二十二日壽山に御登山四方の景勝を賞でさせらる州下官民相謀り此

三	四二六〇 <small>立方米</small>	二五〇九 <small>米</small>	二四二八 <small>米</small>	三三二七 <small>米</small>	三三三六 <small>米</small>	三九 <small>米</small>	八 <small>時間</small>	一五七〇 <small>立方米</small>
---	-------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------	---------------------	-------------------------

杉本音吉氏記念碑

壽山の中腹淨水池入口の高臺にあり、本市の功勞者故高雄消防組長杉本音吉氏の頌徳記念碑にして昭和七年六月建設せられたるものなり。

壽山ゴルフリングス

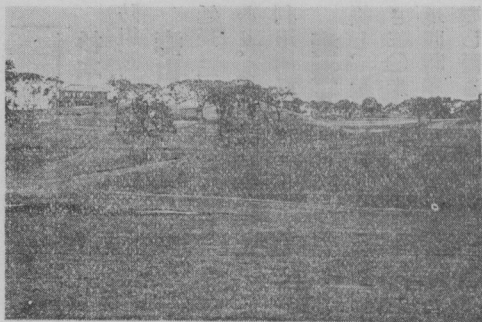
壽山公園宮の臺下森林間に在り面積九萬五千坪九ホール

延長三、二二〇碼にして昭和九年十月工費八萬六千圓を以て竣功す、園内ハウスの設備あり。周圍常盤樹鬱蒼として四時涼風を恣にし無名花は四時ホールの邊を採色す。之が利用同好者逐年増加し會員組織により維持せらる。

壽海水浴場

壽山の山麓通稱西子灣に在り昭和三年六月工費二萬三千圓を以て改

築し、翌四年六月六千七百圓を投じて食堂を附設し、更に昭和十年工費一萬圓を以て長さ三〇米、幅二〇米、深〇・六米より一米の兒童プールを増設海水清水自由に充滿す所在地四時翠綠の壽山に抱擁せられ附近の風光明媚山藍水碧天惠の景勝を望み萬斛の涼味を喫し得る。南部臺灣唯一の鎖夏地として逐年入場者の増加を見つゝあり。



スングリフルゴ山壽

西子灣温浴場

壽海水浴場の隣接地に始政四十週年記念博覽會地方分館として、昭和十年十二月二十五日工費四萬六千圓を投じて建設せらる、木骨煉瓦鐵筋コンクリート混造二階建一部平家建とし休憩室男女浴場に區分せらる所在地稀に見る景趣に富むと共に浴室の利便なる爲四時浴客の絶ゆることなし。

臨海道路

市内哨船町より西子灣を経て桃子園に到る壽山々麓を外海に沿ふ延長二里十七丁一間の周遊道路の通稱なり、沿道常盤樹鬱蒼たる間に巨巖の起伏するあり。瞰下數丈潮流に浸蝕せられたる獨立岩に打ち寄する白波を望み稀に見る景趣に周遊自動車を貸るもの杖を曳く者頗る多し。

東球場

市の東部大港埔眺望廣濶の地に在り、高雄州廳北側三線道路より一直線に十三町の距離に總面積一萬二千八百餘坪の州有地内に七千坪を球場として理想的設備を施し、西子灣グラウンドの軟式球場として使用せらるゝに對し本市唯一の硬式野球場として盛んに利用せられ本市勝地の一なるに恥ぢず。

第五 市政機關

市政機關

に行政機關、議決機關、補助機關あり、行政機關は地方官々制に依り市尹、助役、視學、屬及技手を置かれ、又地方待遇職員令に依り産業主事、土木技師、衛生技師、産業書記、産業技手、土木技手、社會事業書記、及社會教育書記を配置さるゝと共に市制第五條に依る吏員として主事、技師、掃除監督長、書記、主事補、技手、掃除監督及掃除巡視等を配し、市尹、助役の下に庶務、勸業、土木、水道、衛生、教育、稅務、會計の八課を設け、各課に左の係を置き、市政の一切を處理すると共に市制に依る、議決機關としての市會は二十八名の市會議員より成り、補助機關として常設委員三

十名、區長二十一名の名譽職員ありて區に區書記を配置し、各般の市政に參與或は補助、
 運行せしめつゝあり。

庶務課……文書係	調査係	庶務係	兵事係
勸業課……商工係	水産係	農務係	市場係
土木課……庶務係	土木係	營繕係	
水道課……庶務係	給水係	工務係	
衛生課……保健係	防疫係		
教育課……學務係	社會教育係	社會事業係	
稅務課……賦課係	徵收係		
會計課……經理係	調度係		

區制の確立と區會の結成

昭和十年十月一日地方制度改正に伴ひ當市に於ては
 全區域を二十一區に分ち區を設置すると共に區長を任命せり、而して區事務の圓滿なる
 運用を期する爲區長を中心とし區民を打つて一丸とする區會を結成し自治的訓練を行ひ

専ら區の活動を促進しつゝあり、未だ創業時代に屬すと雖も漸次區民の自覺と相俟ち其の成績見るべきものあり。

◇區の名稱及區域

名稱	區域	戸數		計
		内地人	本島人	
哨船町區	哨船町一圓、壽町の内通稱西子灣	三〇〇	二七六	五七八
湊町區	湊町一圓	一、〇四〇	三三七	一、三六七
新濱町區	新濱町一圓	一六二	一五四	三三五
山下町區	山下町一圓、壽町一番地より一九番地迄	五六	二二	七七
田町區	田町一圓、内惟の一部(内惟六三、 交四、七八番地)	五四〇	四九	九八九
鹽埕町一區	鹽埕町の内小賣市場北隣を東西に貫流する道路を境界とし其の南側一圓	三五三	五三	八八五

鹽埕町二區	堀江町區	入船町區	榮町區	旗後町區	平和町區	中洲區	三塊厝區	苓雅寮區	前鎮區	前金區	過田子區	內惟區
-------	------	------	-----	------	------	-----	------	------	-----	-----	------	-----

同上北側一圓	堀江町一圓	入船町一圓	榮町一圓	旗後町一圓	平和町一圓	綠町、中洲一圓	三塊厝、大港一圓	苓雅寮一圓	前鎮、戲獅甲一圓	前金一圓	過田子、林德官、大港埔一圓	內惟一圓(六四三、六四七、七八番地を除く)
--------	-------	-------	------	-------	-------	---------	----------	-------	----------	------	---------------	-----------------------

一五	五四	四〇八	二七六	一〇八	四一九	六	一八七	二四	二	二五	六	二
----	----	-----	-----	-----	-----	---	-----	----	---	----	---	---

一七〇二	九四	二六一	六四	一四〇一	五三〇	五〇三	九五九	九五七	四四六	四七六	三七五	四四八
------	----	-----	----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

一七六	六三五	六六九	三四〇	一五〇九	九三九	五〇九	一、二四六	九八一	四四八	七三一	四三六	四六九
-----	-----	-----	-----	------	-----	-----	-------	-----	-----	-----	-----	-----

あり。
躍進的市勢の膨脹に伴ひ施設事項愈々多きを加へ來りたる結果歳計は逐年増大しつゝ

第六 財 政

一	市 助	官
一	役 視	
一	學 屬	
七	手 技	吏
四	事主業産	
一	師技木土	待
一	師技生衛	遇
一	記書業産	職
一	手技業産	員
一	手技木土	
一	記爲業事會社	
一	記書育教會社	
二	事 主	吏
一	師 技	
一	長督監除掃	
二	記 書	
四	補事主	
二	手 技	
六	督監除掃	員
一	視巡除掃	
六	託 嘱	
一	雇	
三	傭 務 事	
一	備 務 計	
三		
一		
三		
〇		
六		
四		
一		
八		

◇官吏及吏員

(昭和十年末)

桃子園區	桃子園、前峯尾一圓		
北野町區	北野町一圓		
		二	二
		一、五九七	三、四七
		一、六六四	三、四九

般

神 社 費	市 會 費	市 參 事 會 費	役 所 費	土 木 費	小 學 校 費	公 學 校 費	商 工 專 修 學 校 費	女 子 技 藝 學 校 費	學 事 諸 費	社 會 教 育 費	圖 書 館 費	方 面 委 員 費
三	二、三五六	二二五	九、九九三	五、一六三	三三、三三八	三、八九四	三、五三	三、七五五	二、〇〇五	一、三、二八四	五、八六〇	一、九七八
救 助 費	公 設 質 鋪 費	小 公 園 費	公 會 堂 費	職 業 紹 介 所 費	市 營 住 宅 費	海 水 浴 場 費	溫 浴 場 費	社 會 事 業 諸 費	傳 染 病 豫 防 費	傳 染 病 院 費	撒 水 費	衛 生 諸 費
七二	八、三三	二、三九九	一、九四〇	九六八	一七、二一八	四、六〇七	五、五八八	四〇〇	一、六四六八	八、五〇九	九、二四五	四九一
污 物 掃 除 費	下 水 道 費	墓 地 費	火 葬 場 費	齋 場 費	葬 儀 自 動 車 費	小 賣 市 場 費	卸 賣 市 場 費	家 畜 市 場 費	勸 業 諸 費	地 方 改 良 費	警 備 費	基 本 財 產 造 成 費
四六、一〇八	七、六〇三	一、三二六	一、八九三	一、〇八四	九三九	一、六七五	一、五、三三五	一、一、五九六	四、一〇一	一、〇九〇	一、八、二七三	三、三、二二

		計		會										
入歲		時	臨	出	歲	常								
使用料及手數料	二四〇、七六	警備費	市政調查費	物整理費	マラリア防遏地	衛生施設營繕費	遊園地施設費	業費	埋立土砂供給事業費	市區改正工事費	土木費	諸稅及負擔	財產費	選舉費
		一〇〇〇	三〇〇〇	七〇四〇	一、八五〇	五、五〇〇	二〇、〇七一	一〇三、六〇五	三三、二四	四三	二七五二	三、三三三	二七五二	三、三三三
給水料	三三、四九四	市場營繕費	自動車費	海水浴場營繕費	公會堂營繕費	公學校營繕費	小學校營繕費	渡船營繕費	補助及寄附	四八二	公金取扱費	自動車費	雜支	公
		五〇七〇〇	九〇〇〇	一、七〇〇	二〇〇〇	三、八九〇	一、八六〇	五、五〇〇	一、三六〇	一、八四	一、五九	四八二	一、八四	一、五九
給水裝置料	三九、八五〇		公債費	額	續費	市廳舍新營費	積立金	財產費	林設置費	潮害防備並風致	勸業諸費	豫備費	公費	公費
			一三九、九三四	一、二六、九三四	四七	三〇〇	六、六〇〇	四、五九	六、六〇〇	一、五〇〇〇	六、〇〇〇	一、五〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇

市				州				稅			
地租	所得稅	戶稅	營業稅	地租附加稅	所得稅附加稅	戶稅	營業稅	雜種稅	計	第三種所得稅	計
割	割	割	割	割	割	稅	稅	稅	稅	計	計
一三,四六五.二一	四四.二三	一七九,一六九.二三	一二,八四三.二一	三三,二七三.五	三三,三六七.七	三三,三〇二.七	二九七,六七六.二八	一六九,八一四.六八	五三七,三二七.二五	八四,五五一.〇三	一八六,九七一.二三
〇.七三	〇.〇二	九.五八	六.〇三	一.七七	〇.二七	一.七八	一五.九一	九.〇八	二八.七三	四.五三	九.九九
〇.一五		二.〇六	一.二九	〇.三八	〇.〇三	〇.三八	三.四三	一.九五	六.一八	〇.九七	二.一五
							內屠畜稅	遊興稅			
							四〇,五七六.八〇	三七,六七三.九五			

第七 神寺、宗教

一、神社

(昭和十年末現在)

名	縣社高雄神社	祭	神	造營年月	例祭日	氏子區域	所在	神職數
稱	大物主尊	祭	神	明治四十五年 昭和四年四月新營	二十八日	一市二郡	壽町	一 二
稱	崇德天皇 北白川宮能久親王	祭	神					

二、神道

(昭和十年末現在)

名	金光教高雄教會所	祭	神	創立年月日	所在	布教師	信徒數
稱	同祀教祖神	祭	神	大正元年 十月二十三日	山下町	一人	四七 八 一 五〇五
稱	天地金乃神	祭	神			內地人 本島人 外國人	計

名	稱	宗教派	創立年月日	所在	布教師					
					內地人	本島人	外國人	計		
南溟山寶船寺	眞願寺派	眞宗	明治三十九年十二月十五日	壽町	一	三八三	一	三六七	一	四二九八
淨土宗高雄布教所	眞言宗各派	眞宗	明治三十六年九月十八日	榮町	一	一三八〇	一	一三五	一	一三八五
眞言宗高野山高布教所	眞言宗各派	眞宗	大正六年三月十七日	壽町	一	一三九〇	一	一三五	一	一三九五
日蓮宗高雄布教所	日蓮宗	日蓮宗	大正六年三月六日	壽町	一	六五〇	一	五	一	六五五
天臺宗高雄布教所	天臺宗	天臺宗	大正九年三月九日	湊町	一	八二〇	一	四	一	八五五

三、佛 教

(昭和十年末現在)

天理教山名會打狗宣教所	國常立尊ノ外十柱天理大神	大正四年八月五日	山下町	一	一六五	一	一六五
計				二	六六二	一	七七〇

四、基督教

(昭和十年末現在)

本願寺高雄布教所	眞宗大谷派	大正十四年	堀江町	一	三、二〇九	八	一	三、二一七
萬壽山龍泉寺	臨濟宗 妙心寺派	大正十二年	內惟	一	一、四七四	一	一	一、四七四
大壽山南禪寺	曹洞宗	昭和四年	湊町	一	一、四九〇	七	五	一、五七三
計		四月八日		八	三、六六〇	一、九八七	五	五、一四六、五三

名	稱	宗教派	創立年月日	所在	信徒數			
					布教所	內地人	本島人	外國人
荅雅寮天主教會		羅馬法王派	咸豐九年 (安政六年)	荅雅寮	二	三	一、四五三	一、五五
旗後臺灣基督長老教會		英國長老派	光緒三年 (明治十年)	旗後町	一	一	三、四六	三、四六
高雄日本基督教會		日本基督會	明治四十一年 (七月)	湊町	一	一	一	四九

五、舊慣ニ依ル寺廟

臺灣基督長老教會高雄會	長老教會派	大正十三年	北野町	一	二八七	二八七
高雄聖潔教會	東洋宣教會 ホリイネス	昭和六年	堀江町	一	一七	一七
救世軍高雄小隊	基督教會	昭和九年	山下町	二	五	二七
計				八	二〇九	二三四

寺廟	稱	寺廟團體數	信徒又ハ會員數
齋堂	堂		
宗教的團體神明會			
計		三	一九七三
		一	二一〇
		五	一〇五
		三	二〇〇八

市立高雄第二尋常高等小學校
 大正十年五月
 計

三〇	二四	九三	八三	七六	一五九三	三九	二三	六三	八七	七八四	一六五五		
五	四	一五	一四	九	一四九	一四〇	二、八九七	八八	四二	一三九	一、五八三	一、四四三	三、〇二六

四、公學校

(昭和十一年四月現在)

校名	開校年月	所在	學級數	教員		內地人		本島人		兒童			
				男	女	男	女	男	女	男	女	計	
市立高雄第一公學校	明治三十年十月	中和町	二	七	五	三	△	一	一	二五	二二	△	三七
同 中洲分教場	大正十年四月	中洲	一	一	一	一	一	一	九	九	一、三八八	一、三七八	四六九
同 高雄第二公學校	明治三十年六月	苓雅寮	一	三	五	一	一	一	八	三	三〇	一、二七七	八三七
同 前鎮分教場	大正十年四月	前鎮	一	一	一	一	一	一	四	一〇	四	一〇	四三
同 高雄第三公學校	大正九年四月	三塊厝	二	二	九	三〇	一	一	七	五	二、二二三	一、三九九	七八一

五、補習學校

內地人欄ノ△印ハ朝鮮人本島人欄△印ハ支那人

同 計	桃子園分教場	內惟公學校	高雄第四公學校
年四月	年大正十四年四月	年大正十四年四月	昭和十四年四月
	桃子園	內惟	前金
八七	二	五	二
七	二	三	九
三	一	一	三
九〇	二	四	三
一一	△	一	一
一	△	一	一
一四	△	一	△
三〇	四	二	五
三	三	五	七
一、九四	△	九	三
六	一	八	△
四七	四	七	九
四	五	〇	六
二、四八	一	二	五
八	三	五	八
一、九六	三	九	三
三	三	九	三
六、二〇	一	五	〇
	四	五	〇
	五	〇	〇
	五	〇	〇

同	市立高雄商工專修學校	同	夜間部生徒
年四月	昭和十四年四月	同	同
	湊町	同	同
科別	二	三	三
兼	一	一	一
專	一	一	一
計	四	四	四
男	三	三	三
女	一	一	一
計	二	二	二
男	六	六	六
女	一	一	一
計	七	七	七
男	三	三	三
女	一	一	一
計	四	四	四
男	二	二	二
女	一	一	一
計	三	三	三
男	二	二	二
女	一	一	一
計	三	三	三

第九 社會教育

一、市立高雄圖書館

(昭和十年末現在)

開館日期	大正十四年四月一日	所在	山下町	藏書冊數	和漢書 六九六冊 洋書 一三三冊 計 七二〇八冊	閱覽人員	內地人 四八三三人 本島人 二三八七二人 計 六五七〇三人	昭和十年中開館日數	三三七日
兒童	四、七六冊	內地人	一、本島人	計	七、三三三冊	計	七、五三三冊	一日平均閱覽冊數	一四四冊
一、二、三、四、五	三、八、一〇、一	計	一、本島人	計	一、九四、五五冊	計	一、九四、五五冊	一日平均閱覽冊數	五九冊
五、〇、三三	三、六、七、五、六	計	一、本島人	計	九、〇、七、八八冊	計	九、一、九、七八冊	一日平均閱覽冊數	二〇〇冊
六、二	一、二、九、〇	計	一、本島人	計	三、三、九冊	計	三、三、九冊	一日平均閱覽冊數	二八二冊
和漢書	洋書	計	計	計	計	計	計	計	計
六、九、六	一、三、三	七、二、〇、八	四、八、三、三	二、三、八、七、二	六、五、七、〇、三	三、三、七			



高 雄 市 公 會 堂

內 譯

種 類 別 藏 書 冊 數

種 別 和 漢 書 洋 書 計

辭書便覽	雜書	一、二四五	冊	四	一、二八九	冊
哲學	宗教	三九			三九	
教育	兵事	五〇三			五〇三	
文學	小說	一、二〇三		六	一、二六七	
歷史	地誌	八四五		七	八五三	
法制	經濟	一、二三七		四	一、二四二	
統計	社會	一、二一六			一、二一六	
醫學	博學	三二〇			三二〇	
工藝	寫真	三六〇			三六〇	
藝術	家寫	三三九			三三三	
產業	家寫	七〇〇		三	七〇〇	
兒童	讀物	六九六		三	七二八	
計						

種別	閱覽冊數		計
	內地人一本島人	洋冊	
辭書便覽雜書	七、九九 <small>冊</small>	七、二一 <small>冊</small>	一五、六一 <small>冊</small>
哲學 宗教	九三八	七二三	一、六五一
教育 兵事 漢文	一、二七九	一、二四四	二、五二三
文學 小說 語學	一、七三七〇	八、〇七六	二六、〇九六
歷史地誌紀行傳記	三、九〇七	二、一三三	六、〇四〇
法制經濟統計社會	二、四七〇	二、〇六二	四、五三三
數學 醫學	二、三〇八	一、一九四	三、五〇三
理工 博物	二、九三三	一、七四〇	四、六七三
藝術 寫真	二、二四一	三、一三二	五、三七三
產業 家政	一、四三五	一、〇八一	二、五四三
兒童 讀物	一、二五四	八、二〇一	一九、四五五
計	五四、〇三三	三六、七五六	九一、九七八

職業別	職業別		職業別		計
	內地人	本島人	本島人	女	
學生生徒	二,〇三三	二,四一〇	一,三三	一四,九九五	
官公吏軍人	一,四二一	三〇三	一四	一,七三三	
教員宗教家	一七二	四三九	一	六二五	
法務又ハ醫業家	八八	三二九	一	三二七	
記者著述家藝術家	二五七	八六	一	三四三	
實業家	一,九四六	二,三九六	一四	四,三五六	
無職	八,七二四	六,一八二	九	一四,九三三	
其他	四,三八一	五,五一一	五	九,九四六	
計	二九,〇〇〇	一七,五四五	一七四	四七,三四六	
兒童	八,三九九	五,二七八	八七四	一八,四五六	
合計	三七,三九九	二二,八二三	一,〇四八	六五,七〇三	

二、少、青年團 (昭和十年末現在)

團名	代表者團長	結團年月日	團員		計
			男	女	
高雄市壽少年團	高雄第一尋常高等小學校長	昭和六年六月七日	六〇	一	六〇
高雄市嫩少年團	高雄第二尋常高等小學校長	同	七〇	一	七〇
高雄市啓明青年團	高雄第三公學校長	昭和六年三月一日	六〇	一	六〇
高雄市啓明女子青年團	同	昭和九年六月七日	一	五	五
高雄市內惟青年團	高雄內惟公學校長	昭和六年三月一日	一	五	五
高雄市内惟女子青年團	同	昭和十年九月二十三日	一	三	三
高雄市高津青年團	高雄第一公學校長	昭和九年十月十日	一	五	六
高雄市高津女子青年團	同	昭和十年三月六日	一	三	三
高雄市峇雅寮青年團	高雄第二公學校長	昭和九年十二月六日	一	四	五
高雄市聯合青年團	高雄市尹	昭和十年九月二十九日	三	二	三六

三、市立高雄青年訓練所

(昭和十年末現在)

管理者	代表者	開始年月日	指導員	生徒
市尹	主事 高雄第二尋常 高等小學校長	昭和七年三月一日	公民科 1人 修身科 5人 普通學科 8人 職業學科 2人 計 16人	一年次 1人 二年次 2人 三年次 3人 四年次 3人 計 9人
			1人	1人
			5人	2人
			8人	3人
			2人	3人
			16人	10人
			2人	1人
			18人	18人

四、國語講習所

(昭和十年末現在)

所名	開設者	開所年月日	職員數	生徒數
高雄市旗後國語講習所	高雄市尹	昭和六年四月一日	主事 1人 講師 1人	第一期生 1人 第二期生 5人 計 6人
高雄市苓雅寮國語講習所	同	同	主事 1人 講師 1人	第一期生 4人 第二期生 1人 計 5人
高雄市旭國語講習所	同	昭和八年四月一日	主事 1人 講師 1人	第一期生 3人 第二期生 3人 計 6人

五、各種講習會

(昭和十年中)

種別	開設回数	講習延日數	講習延時間	講師	講習會員		備考
					男	女	
簡易國語講習會	一四	二八三	五六六	二三	四三〇	一四	四四四
卒業生講習會	八	一六五	三三〇	五三	二二七	一五	三八九
補習教育講習會	一	一〇	五〇	七	一	五	五一
實用家事講習會	三	四五六	九四六	八三	六六七	二二七	八八四
計							
高雄市內惟國語講習所	同	昭 和 十 年 六 月 二 三 日	昭 和 十 年 二 月 十 日	私立財團法人 佛教慈愛醫院 理事長	一 同 同 同	一 一 一 一	四 三 三 三
計					五	三	九〇 二〇三 三五 一四〇 四六七

六、高雄市教化聯合會

(昭和十年末現在)

組織年月日	代表者	加體數	青少年團 學校職員	宗教家	教化團 關係	計
昭和九年五月二十二日	高雄市尹	四〇	六	一三	四	三三

七、市民講演、活動寫真

(昭和十年中)

市民講演會	公開活動寫真	備考
開催回数	映寫回数	觀覽者概數
七回	一四回	二五、三〇〇人
聽講者概數	其他教化宣傳	
八六三三人	三回	

第十 社會事業

本市に於ける社會事業は方面事業、助成事業、救護事業、保健事業、經濟保護事業、

兒童保護並教化事業にして特に高雄慈惠院、高雄天主教會孤兒院、高雄市方面委員事業助成會及佛教慈愛院は私設優良體團として毎年紀元の佳辰に方り御下賜金拜受の光榮に浴する等經營概ね良好なり。

い、高雄市方面委員

(昭和十年末)

全市	創設年月	職員	方面委員	取扱件數
區域	大正十二年三月	書記	計	計
一區		内地人	八五	一、三六
		本島人	一、三六	七
		計	五四	六四
		相談	三二	四、三七
		指導		
		保健		
		兒童		
		周旋		
		戶籍		
		整理		
		給與		
		其ノ他		
		計		

ろ、財團法人高雄市方面委員事業助成會

(昭和十年度)

所在地	創立年月	基本財産	昭和十年年度決算	事業成績
高雄市	大正十五年	三、〇〇〇円	収入總額	宿泊部
湊町	年八月	六、二一九円	支出總額	延人員
		二、七八八円	人員	封筒
		三、三七	人員	販賣
		三、五三	人員	救助件數
		—	封筒	金額
		三、〇〇〇枚	救助件數	生業資金部
		二、三三	金額	貸付件數
		六、八九七円	金額	金額
		三、一、四五三円	金額	

は、高雄市職業紹介所

(昭和十年度中)

所在地	創設年月	求人數	求職數	就職數	求職ニ對スル就職歩合	備考
	大正十一年五月					
市役所内						

に、保健保護教化事業

(昭和十年度末)

名稱	所在地	創設年月	事業大要	收容兒童院內	院外
高雄慈惠院	前金	大正十一年四月	窮民救助	院內內地人	院外
佛教慈愛院	北野町	昭和四年四月	實費診療及施療	院內內地人	院外
高雄診療所	山下町	昭和六年八月	同	院內內地人	院外
				院內內地人	院外

本島人三三人 延人員二七七人
 本島人四九人 延人員二八九六六人
 實費診療一五七五五人 施療四二〇人



壽海海水浴場



市營住宅(田町方面)

ほ、市営住宅

市勢の膨脹に因る住宅難の緩和と家賃の軽減調節を圖り且つ市區計畫に伴ふ市街の體裁を保たしむる目的の下に大正十二年度以降に於て市営住宅を建設昭和元年度、同三年同七年、同八年度に互り市内各方面に建築したるに使用料は市内一般家賃に比し稍低廉なると敷地構造等住宅價值良好なる爲殆んど空屋を見ること稀なり今住宅の種類及使用料を建設地方面別に示せば次の如し。

構造	種別	建設方面と戸數										計	建坪	一戸の 疊數	一戸の 月一戸 の使用料	
		金	前	林	德	田	入	鹽	湊	壽	過					旗
内地瓦葺木 造平家建	特甲	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四	四〇〇〇	三九〇	六五〇〇
同	甲	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六	二六〇〇	二九五	四〇〇〇
同	特乙	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二三〇〇	二三〇	三三〇〇

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 特 同 同 乙 同 同 同 同 同
丙

| | | | | | | | | | | | |

| 三 | | | | | | | | | | |

| | | 四 | 六 | 八 八 | | | | |

| | 六 | 一 | 八 | | | | | 六

四 | | | | | | | | 二 | | |

四 | | | | | | | | 二 | | |

| | | | | | | | | | | 一 |

| | | | | | | 二 | | | | |

| | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |

八 三 六 四 一 六 八 〇 八 二 二 一 六

一·二·七·五 一·三·〇·〇 一·二·七·五 一·三·〇·〇 一·三·〇·〇 一·五·〇·〇 一·五·〇·〇 一·五·〇·〇 一·五·二·五 一·五·二·五 一·五·二·五 一·八·〇·〇 一·八·〇·〇

一·二·〇 一·二·〇 一·二·〇 一·二·〇 一·二·〇 一·五·五 一·五·五 一·七·〇 一·七·〇 一·七·〇 一·七·〇 二·〇·五 一·八·五

一·五·〇·〇 一·六·〇·〇 一·六·〇·〇 一·七·〇·〇 二·〇·〇·〇 一·八·〇·〇 二·〇·〇·〇 三·三·〇·〇 一·八·〇·〇 二·〇·〇·〇 二·四·〇·〇 二·五·〇·〇 二·五·〇·〇

入船町小公園	入船町一ノ三	三三	同	鐵製滑臺、鐵製ブランコ、スモールブランコ、固定椅子、便所
湊町小公園	湊町三ノ五	四〇	昭和五年度	鐵製滑臺、同遊動機、固定椅子
北野町小公園	北野町四ノ四	五三	昭和六年度	木製滑臺、木製ブランコ、金棒、便所
西子灣小公園	壽町一ノ七	二八	昭和七年度	固定椅子、便所
哨船町小公園	壽町一ノ三	四三	同	同
綠町小公園	綠町	一七、五四	昭和八年度	固定椅子

と、市營公設質舖

(昭和十年度末現在)

創設年月	所在地	運轉資金		年次	貸出		質受		流質		賣拂		藏物		均貸出	一日平均貸出
		件數	金額		件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額		
昭和三年	堀江町	六〇,〇〇〇	円	昭和三年度	五、三三	七六、四九三・四四	二、九二	四、三二一・八五	二、四八	二、三三八・八〇	七五	一、〇三〇・三〇	二	一、五五〇	一八、二九九・三〇	一四、六八
		六〇,〇〇〇	円	昭和四年度	二、二六	二、九、〇九三・六八	七、五三	二、七三六・三三	一、八四	一、〇四・七〇	一、三三	一、二五九・三五	三	二、四三・八〇	三、五二・九	一、五・九

五月

第十一 産 業

本市が新興高雄として今日の殷盛を見るに至りたるは一に天惠的港灣と中南部臺灣に於ける著しき産業發展に依存するは勿論にして本島産業の根幹をなす砂糖、米、鳳梨、芭蕉等を豊富に産する沃野を後方に持つ高雄港は産業經濟的に北方の基隆港と共に其の存在價值重大なるものあるも更に當港は南方政策の根據地として其の將來を囑望されつゝあり當港に於ける主要貿易品は後述貿易の項に見るが如く砂糖、米、鳳梨罐詰、芭蕉の如き農産物に依つて占められ殊に砂糖は近年一億圓を突破し總貿易額の大半に達する状態にあり斯く農産物を主要貨物とする當港は必然的に是等物産の出廻期たる十月下旬より翌年六月上旬に於て最も繁忙其の極に達し荷役力の不足を見るが如き事あるも一度

昭七年度	昭十年度
20,000,000	115,000,000
25,000,000	3,566,552,590
26,800,000	15,643,300,492
27,000,000	5,785,569,949
27,500,000	5,365,827,000
28,000,000	5,365,827,000
28,500,000	10,550,000
29,000,000	45,900,000
29,500,000	14,730,000

此の繁忙期を過ぐれば聊か寂莫の感なき能はざるものあり將來中南部臺灣に於ける生産竝に消費市場の中心地たらしむるは勿論更に南方市場に進出し交易の増進を計り南方漁業の伸展市場の開拓と相俟つて貿易の進展と共に一大商工業都市たらしむる重大なる使命に置かる。

一、産業生産

年次	農産	畜産	林産	水産	工業	計
大正十三年	一、〇三八、二八一 <small>円</small>	二七四、三五二 <small>円</small>	一七、四九八 <small>円</small>	一、二九四、〇四三 <small>円</small>	八、二八、二〇七 <small>円</small>	一〇、六三三、三七九 <small>円</small>
昭和五年	六八五、一四五	五九五、四一五	五三、五五三	二、二六二、四九三	一三、九〇三、九二三	一七、四九九、五三〇
昭和十年	一、三四〇、七五四	六七九、七三五	四三〇、三六三	二、六五六、七八三	一六、九九〇、四六一	三三、〇八八、〇八六

イ、農産

年次	米	甘藷	甘蔗	蔬菓	實	其他	計
大正十三年	七五八、六三二 <small>円</small>	五六、三三三 <small>円</small>	四五、〇三二 <small>円</small>	九八、九〇〇 <small>円</small>	一一、五五五 <small>円</small>	五七、九五三 <small>円</small>	一、〇二八、二八一 <small>円</small>
昭和五年	四九八、一五三	四四、二〇五	五一、六五六	六三、〇六六	五、六一八	三三、四五〇	六八五、一四七
昭和十年	一、二四六、八五七	一一四、二五五	六三、五三三	一四七、八四六	一三、三三三	一五、〇九〇	一、四八五、五八三
種別	作付面積	産額	價格	種別	作付面積	産額	價格
米	一、四三五六一 <small>甲</small>	三〇、八三五 <small>石</small>	七六、〇七三 <small>円</small>	蔬菓	二九一、三三〇 <small>甲</small>	六、九六一、八一五 <small>石</small>	一四七、八四六 <small>円</small>
第一期作	一、四八九〇〇	一八、七〇六	四三〇、七八五	其他	二四、六〇〇	三六七、六九四 <small>石</small>	一三、三三三
第二期作	四三九、三三〇	九、五二〇、八四五 <small>斤</small>	一一四、一三四	計	三、八九四〇八	—	一、四八五、五八三
甘藷	一〇三、四七二	三三、三九三、六三一 <small>斤</small>	六三、五三三				
甘蔗							

口、畜 産

牛					種 類	昭 和 十 年	大 正 十 三 年	昭 和 五 年	昭 和 十 年	年 次
水 牛	黃 牛	印 度 牛	洋 牛	雜 種 牛						
八四	八四	三	一	二〇八	飼末昭 養現和 數在十 年	九三〇	六〇二	六〇二	一〇,二四〇	牛
七	三	一	一	三	中昭 生和 產十 數年	七三	五〇〇	一	二三四	山 羊
五	六	一	一	二	死中昭 亡家和 數畜十 年	一九三,九二四	二二,三六四	三三,七二〇	四六九,九〇四	豚
五	二	一	一	二	種 類	三五六四	一〇,〇六二	二二,三七六	一二,六三九	家 禽
五	五	二	七	二	乳牛 印度牛 雜種牛	一〇,〇六二	一七,四五八	二九,七二七	六八,〇二九	家 禽 卵
五	五	二	七	二	種 類	一七,四五八	四六,七三三	四八,三〇〇	三〇,八八三	牛 乳
五	五	二	七	二	飼末昭 養現和 數在十 年	九四〇	三	四八	一六三	蜂 蜜
六	一	一	一	六	中昭 生和 產十 數年	八,三六三	九四〇	四,七六八	七〇,七九	厩 肥
三	三	一	一	三	死中昭 亡家和 數畜十 年	二七四,三五二	八,三六三	五九,四一五	七三六,四六六	皮 角 骨
三	三	一	一	三	種 類	計				

昭和十年	一六、三、三三	六九六、三、六九	一七、四、六三	二〇、七、九	四五、二、〇八	八〇	三三、二、八〇	四八、二、〇六三
------	---------	----------	---------	--------	---------	----	---------	----------

八、林 産

年次	草木伐採	竹	林木	炭	筍	生龍眼	土石類	計
昭和十年	六八五 _円	八五 _円	一、三、七九 _円	二、四、三〇 _円	二 _円	四三、〇、七〇 _円	四、五、四、〇三九 _円	

二、水 産

年次	沿岸漁獲	遠洋漁獵	鹹水養殖	淡水養殖	水産加工	計
昭和九年	一五、三、二一 _円	二、三、六、四〇 _円	七、九〇〇 _円	八八〇 _円	二〇、一、三五 _円	二、六、五、六、七八三 _円
昭和十年	一四、九、八三	二、四、八、三九	三、九、四五	一九八	四四、三、九三〇	三、〇、四、四、三、二七

水産業者		漁撈	養殖	製造	内地人	本島人	其他	計
専業	二、八二七 <small>人</small>		三五 <small>人</small>	三〇 <small>人</small>	一、三五六 <small>人</small>	一、五九九 <small>人</small>		二、八八七 <small>人</small>
兼業	一、三〇八		三三〇	三五九	一、六六六			一、八三七
計	四、一三五		二五五	三〇四	一、五三七	三、一九五	二	四、七三四

◇ 漁獲物種類

漁獲種類	數量	價格	漁獲種類	數量	價格
マグロ	四、三三七 <small>斤</small>	五九七、九四七 <small>円</small>	ボラ	一七二、八五三 <small>斤</small>	三六、九六七 <small>円</small>
カキ	三、四七五、六五六	六〇三、五八〇	サワラ	一六八、三三九	四一、〇九六
フカ	二、七四、四八〇	二〇二、四八七	其他	九、三六〇、六二〇	一、〇三三、四四〇
カツヒ	八二、二六六	一三、九五八	計	二〇、四七二、一七七	二、五六八、一五四
タビ	一八二、五三五	四九六、七九			

岡 鳳 屏

山 山 東

一三三、二七〇〇
二八、八四三・八三
一四〇、五、四〇〇

高 大 其

の

雄 連 他

三五九、九〇三・二五
一四三、〇〇〇・〇〇
一三八、二五九・二

計

二二五、一四九・六

(但シ魚類ノミ)

◇ 水 産 養 殖

種 類

鹹 水 養 殖
數 量

價 格

種 類

淡 水 養 殖
數 量

價 格

か かに
か ぎに
か びき
さ びひ
さ びひ
其 計
他

八六斤
一三〇、七七〇
一、四三七
六七、四九三
一七、六四七
二八、二二二

九五円
一七、〇〇〇
七〇〇
三、二五〇
三、〇〇〇
三、九四五

ら い ぎ
ら い ぎ
う な
こ な
其 計
他

五斤
六五
六〇〇
一〇〇
一三五

四円
一〇五
一〇〇
八
一九

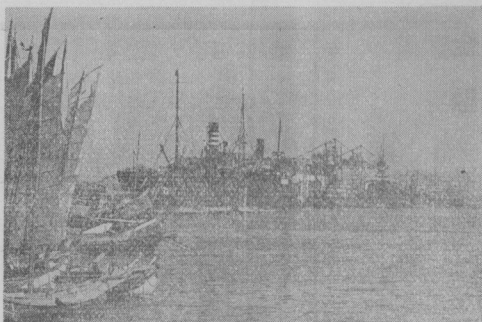
年次	昭 和 十 年	昭 和 九 年	昭 和 十 年	昭 和 九 年
飲食物業	三、九四六、六七四	三、一〇、六五九四	三、九四六、六七四	三、一〇、六五九四
化學工業	二、三七、七三八	四、二八〇、四五三	二、三七、七三八	四、二八〇、四五三
窯業	四、一九四、九三四	四、三三六、七四八	四、一九四、九三四	四、三三六、七四八
金屬工業	四、四六、七八一〇	三、六五七、〇二九	四、四六、七八一〇	三、六五七、〇二九
織工業	八、〇六一、二〇六	七、二八九、二一九	八、〇六一、二〇六	七、二八九、二一九
雜工業	二、三五六	二、一九、二〇六	二、三五六	二、一九、二〇六
特別工業	六四九、三九九	五七九、一七八	六四九、三九九	五七九、一七八
計	一八、六〇〇、九三〇	一六、九九〇、四六一	一八、六〇〇、九三〇	一六、九九〇、四六一
種類	鳳梨罐詰 醬油 味噌 麵類 米粉 米 玄米 大豆 油	菓子類 蒲鉾 豆 ラム サイダ 蜜餞 穀粉	菓子類 蒲鉾 豆 ラム サイダ 蜜餞 穀粉	菓子類 蒲鉾 豆 ラム サイダ 蜜餞 穀粉
工場數	一	一	一	一
生産數量	九、九一、八五三 <small>罐</small>	三、一六二	三、三七、五〇〇 <small>斤</small>	四、五三、四六六 <small>斤</small>
價格	二三八、七三二 <small>円</small>	六三、九二一	四〇、六〇〇	四四、五六〇
工場數	五	四	四	四
生産數量	—	—	—	—
價格	一九八、三五六 <small>円</small>	二九、三一	二四六、八三	九、〇九三
工場數	—	—	—	—
生産數量	—	—	—	—
價格	—	—	—	—
工場數	—	—	—	—
生産數量	—	—	—	—
價格	—	—	—	—

金融

第十二 金融貿易

市内金融は當港貿易狀況と同一の調を辿り前年に比し頗る活況を呈せし

金銀紙	綿製品	線香	塗漆物	テソト	貝釦	其の他	工業計	雜工業計
三	三	二	三	一	一	四	二九	
八〇、三七一	一三、〇一〇				二七、四五、四〇〇 <small>荷</small>			
六九〇三	二、〇八三	四、〇三六	五、六七三	四、二三八	五、〇、五五	七五、八八	二、〇六、三三	
氷	船	液體炭酸	固形炭酸水	其の他	特別工業計	合	計	
四	三			三	二〇	五九七		
四二、七五、七三七 <small>担</small>			二八、三三三 <small>担</small>	一七 <small>担</small>				
二九、六五九	三、〇、四三四	八、四〇四	二五九	三〇、六四三	六四九、三九九	一八、六〇〇、九三〇		



高 雄 港

も地方農村に於ける生産物殊に米價の昂騰は一般に金融の緩慢を來し各銀行に於ては遊資の漸増を見て之れが對策として九月遂に金利引下を斷行個人經濟の緊縮を表現す今各銀行預金貸出金狀況を前年に比較するときは預金受入高に於て約七千萬圓(三割三分)の激増に對し貸出に於ては僅かに五百萬圓(五分)の増加に過ぎず遊資増加を物語り一面庶民金融機關たる産業組合就中信用組合は何れも從來の滞貸出を漸次整理し其の機能を發揮し相當の成績を擧げ個人經濟方面に利用せらるゝを窺はれ益々順調なる經營發達を見つゝありて金融は逐年膨脹しつゝあり。

◇ 銀行金融

預金調

(單位千圓)

銀行名	設置年月	昭和十年		昭和九年		增減	
		受入高	殘高	受入高	殘高	受入高	殘高
臺灣銀行高雄支店	明治三十年九月	一五四,五七四	二二五〇	一〇七,四二六	一八五八	四七,二五八	三九三
商工銀行高雄支店	大正元年八月	五,三三二	一八八八	四五,一〇〇	二,〇四三	一一,三三二	一五五
彰化銀行高雄支店	大正八年七月	三〇,三六七	一四三九	二二,九四七	一,四三八	六,四三〇	△ 九
三和銀行高雄支店	大正十年三月	三八,七九三	二,九三二	三三,七〇〇	二,四九四	五,〇九三	四三八
計		二八〇,〇六五	八,四八九	二二〇,一六三	七,八三三	六九,九〇二	六五五

貸出金調

(單位千圓)

銀行名	所在地	昭和十年		昭和九年		增減	
		貸出高	殘高	貸出高	殘高	貸出高	殘高
臺灣銀行高雄支店	湊町	七、三三三	六、六四三	七六、五七九	五、八〇七△	五、三三七	八三七
商工銀行高雄支店	新濱町	一八、二四〇	一、九三八	一三、五三五	一、五二六	五、七〇五	四三三
彰化銀行高雄支店	湊町	一一、一九七	八三三	七、六三三	一、三九〇	三、五八四△	五、六七
三和銀行高雄支店	新濱町	一六、六九二	一、六六五	一五、六三二	一、七九一	一、〇八〇△	一、二六
計		二七、四八二	二一、〇六〇	一一三、三七八	一〇、五〇四	五、一〇三	五、五六

手形交換高調

銀行名	昭和十年		昭和九年	
	借方	貸方	借方	貸方
	枚數	金額	枚數	金額
	借方	貸方	借方	貸方

區分局名	昭和十年		昭和九年		增減	
	受入高	拂戻高	受入高	拂戻高	受入高	拂戻高
高雄郵便局	四六一,二〇一 _円	四〇六,三三〇 _円	四三七,〇八八 _円	三五三,四七七 _円	三四,一三三 _円	五三,七五三 _円
高雄郵便局	九四,三六三	九九,六八三	七三,八五三	七六,三一九	二〇,五〇九	二三,三六四
旗後出張所						

◇ 郵便貯金受拂高調

臺灣銀行高雄支店	一七,〇九六 _枚	一七,〇六五,九三〇 _円	二〇,六五一	二二,六四〇,六九三 _円	一四,四九一	一三,六三七,二九三 _円	二三,七三二	一七,一三五,一四〇 _円
商工銀行高雄支店	二五,二三六	一六,五二〇,九〇六	二二,八二三	八,四六八,五一九	二二,六四三	一二,八八五,五三九	一七,九四八	七,二四六,三四一
彰化銀行高雄支店	二,五六五	九,九七四,七六六	二二,〇二七	九,一九七,〇六三	二〇,六一一	八,四六五,一五六	二二,〇七一	七,一八二,三〇〇
三和銀行高雄支店	一九,五二〇	一二,七五〇,四二四	二五,〇六六	一七,〇五三,六三五	一八,四六五	一〇,〇三七,九七四	二二,〇三九	一四,〇五六,六一九
高雄郵便局	九八六三	五九一,八二三	一,七二二	五三三,九四〇	九,〇四九	三四八,四〇九	一,五〇〇	四五三,九六一
合計	九三,二七九	五六,八九三,八三九	九三,三三九	五六,八九三,八三九	八六,二八九	四五,九七四,三六一	八六,二八九	四五,九七四,三六一

山下町郵便局
入船町郵便局
計

一八九、五八三
三三〇、二四四
一、〇八四、二九〇

一八九、九一八
二八〇、〇五三
九七五、八八四

一五八、一三三
二七三、七九八
九三一、八五三

一三九、七四八
二三五、八七九
八〇四、四三三

四〇、四七〇
五七、三四六
一五二、四三八

五〇、一七〇
四四、一七四
一七一、四六一

信用組合

(昭和十年末現在)

組合名	區分所在地	創設年月	貸出			預		
			貸出高	回收高	殘高	受入高	拂戻高	殘高
高雄信用組合	新濱町	大正二年十一月	一〇、九八八、六三七	九六七、七九六、一三六、八四一	七、三八六、六五四	六、二一〇、二九一、二六六、五三五		
高砂信用組合	旗後町	大正三年一月	一、五八、七八九	一、三九二、〇五七	三六八、六三三	三、七八二、一七一	三三〇、〇六三	
興業信用組合	鹽埕町	大正六年八月	四〇六〇、三九三	三、九七八、四八七	六〇三、八六八	三、五四七、六四五	三、四八二、四〇五	
有隣信用組合	湊町	昭和七年十月	二四四、一六六	二〇七、五八九	一一五、二八四	三九〇、四九〇	三六三、二七三	

計

昭和九年計

二六、八二一、九八四、五三四九、九三三、四〇四、六三五、一〇六、九六一、二三、五九七、八四七三、三八九、三四九

二二、七四、七六二、三三五、三四五一、九七三、〇八二、〇、五四四、九七七、一〇、二七八、二〇九三、〇八一

貿易

高雄港に於ける貿易は島内産業の開発港灣施設の改善運輸交通の發達其他文化的施設の向上と相俟つて逐年増加し十年中に於ける貿易總額は二億六千七百十八萬七千九百三十三圓に達し吞吐貨物二百三十二萬九千五百八十八噸の著しき増加を示す之れを前年と比較するに噸數に於て輸入四千四百七十一噸を減じたるも金額に於ては内外貿易共に著しき増加を示し總計に於て噸數二十八萬餘噸（一割四分）金額四千七百七十四萬餘圓（一割八分）を増加せり尙重要品別貿易狀況を對比すれば米の移出に於て七百萬圓の激減を見たるは從來高雄港より出貨せられし中部米の北送に基因し其の他前年に比し減額を見たるもの十四種目に互りしも貿易總額の上には差して影響することなく砂糖の出貨及肥料の入貨激増と共に前述の如く四千餘萬圓の増加を示せり一面市内の商況は全年を通じて頗る活況を呈し米價の好調は農村大衆の購買力を増加し諸物價昂騰の情勢を示せり之は銀相場高に依る對支貿易の旺盛と砂糖の増産に依る外昭和九年末來内地に於ける

軍需工業の興隆に依る一般財界の好轉に伴ふものにして當港々勢の地の利と共に驚異的發展は已に商業都市として格付られたるのみならず近時帝國南方政策の據點として重要視せらるゝ關係もあり將來必ずや中南部臺灣に於ける生産並に消費市場の中樞地として目覺しき發展を想像せらる。

貿易

區分	昭和十年		昭和九年		増減	
	噸數	金額	噸數	金額	噸數	金額
輸 入	一九三、七三六	一〇、九三八、七〇八	九六、四九七	三、四七〇、四四〇	九六、三三九	七、四五八、二六八
輸 出	二八四、六五一	三三、七三九、四六九	二八九、一三三	一八、五三二、五三九	四、四七二	四、一九七、九四〇
移 入	四七七、三七七	三三、六五八、一七七	三八五、六一九	二二、〇〇一、九六九	九一、七五八	一一、六五六、二〇八
移 出	一、三六八、九三八	一七、四九三、三九五	一、一七八、八九一	一六〇、二〇五、四三三	九〇、〇三七	一七、二八六、九六三
合 計	五八二、七五三	五六、〇三六、六二一	四八一、八四五	四三、三三三、四六二	一〇〇、九〇八	一一、八〇三、一五九
移 入	一、八五一、六八一	二三三、五三九、〇一六	一、六六〇、七三六	二〇三、四三八、八九五	一九〇、九四五	三〇、〇九〇、一二二
移 出	二、三三九、〇五八	二六七、一八七、一九三	二、〇四六、三五五	二二五、四四〇、八六四	二八二、七〇三	四一、七四六、三三九

重要品別貿易狀況

品名	輸 出		品 品		品名	輸 入		品 品	
	昭和十年	昭和九年	増	△減		昭和十年	昭和九年	増	△減
砂 糖	四七九六六七四 ^円	一三〇、三五六 ^円	四、六六六、三八 ^円		肥料	一〇、四四三、八九二 ^円	二、三三三、二七六 ^円		
鳳梨罐詰	七七四三四	四八一、七五二	二三五、六八三		ガソリン	三、〇八六、三七七	二、二八七、七五七	七九八、五七〇	
綿織物	五三四、一九一	二三六、三三九	二九七、八五三		大豆	二、七九六、五八〇	一、六八四、八三四	一一、一七四六	
芭蕉實	四五六、二五七	四九六、〇〇八	三九、七五一		揮發油	九六五、〇五二	八九〇、一五七	七四、八九四	
セメント	四三〇、二〇九	二六八、二四三	一六一、九六六		重油	四二〇、六四二	四三九、〇二二	二八、三七二	
毛織物	一四三、一八三	一五八、九六七	一六、七八四		鐵	四〇八、〇二六	六四七、二六四	△ 二三九、二四八	
燐 寸	一三三、五四五	一四〇、五九三	八、〇四八		麩	三九三、六二二	二六五、五九一	一二八、〇三三	
乾 筍	七三、七一〇	九〇、五二五	一六、八〇五		包 蓆	三八三、四三二	三四六、一五四	三七、二七七	

中央卸賣市場

(昭和十年中)

芭蕉實	五、三二四、一九八	四、一八七、七七五	一、二二六、四三三	鐵製品	一、五七五、六九九	一、四七〇、〇七八	一〇五、六二二
切干薯	一、二八七、四五三	一、八六九、〇九三	△ 五八一、六四〇	袋	一、四九五、五五七	一、〇一五、三六〇	四八〇、一九七
糖蜜	一、〇五九、六八五	(不詳)	△ 一、〇五九、六八五	自動車同部分 品及附屬品	一、〇〇九、六八五	五八一、八二四	四二七、八六一
鮮魚介	三八七、六六九	六五九、五六一	△ 二七二、八九三	セメント	一、〇〇三、七四一	六七〇、三二六	三三三、五〇五
木材	三五四、九九七	(不詳)	三五四、九九七	自轉車同部分 品及附屬品	六五五、六九四	七二〇、一九六	五四、五〇二
黃麻	二六、六二七	二八三、二二五	△ 二五六、五八八	絹綿織物	六四二、六八九	七三〇、九九〇	七八、三〇一
其他諸品	三、五九三、二三四	三、一〇四、四八四	四八八、七五〇	清酒	五九〇、一九四	六三三、三五七	四二、一六三
計	一七七、四九三、三九五	一六〇、二〇五、四三三	一七二、八六九、六二二	燐寸	五八〇、九五九	五三八、六〇一	四二、三五八
				其他諸品	二〇、四四八、八三〇	一六、四八四、三五〇	三、九六四、四七〇
				計	五六、〇三六、六二二	四三、二三三、四六二	二二、八〇三、二五九

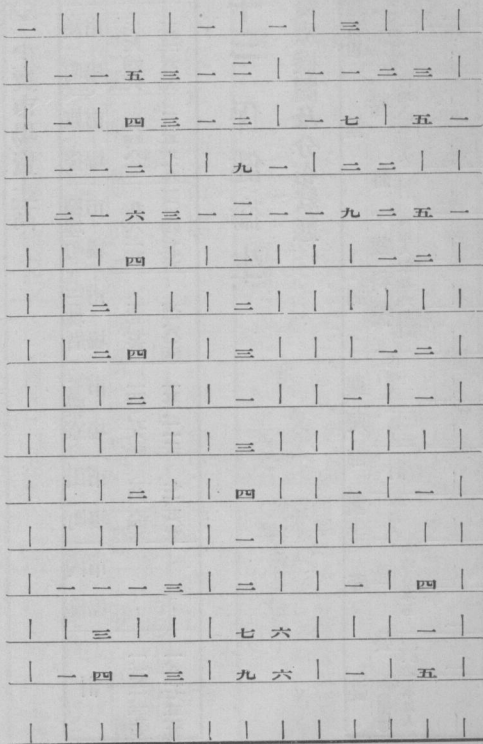
種別	地方別		取扱數量	卸賣金額	備考
	地方	元			
青物部	二、八七、二〇	三、〇〇、八三	二二、二三	一五、三三	前年に比し取扱數量四五、七五疋を減じ金額に於て五七〇圓を増加す。
雜計部	六二、三七〇	五八九、三三	二〇、四二	三八、四八	
昭和九年計	六、三四、二八		三九、七二		

◇家畜(卸)市場

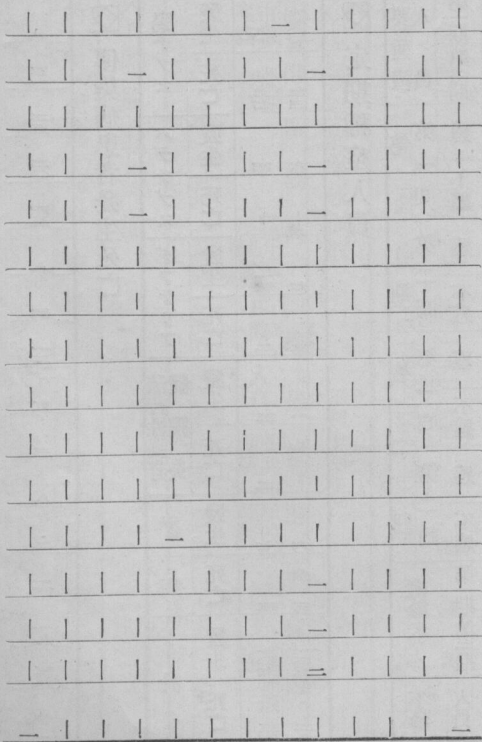
(昭和十年中)

年次別	豚		山		羊		百疋平均相場	
	頭數	重量	頭數	重量	價額	豚	山羊	
昭和九年	一、八九六 ^頭	一、三六、六六 ^疋	一三二 ^頭	一、八〇八 ^疋	三〇九 ^円	二八、五 ^円	一七、二 ^円	
昭和十年	一、九七三	一、三三、四五六	七 ^頭	一、三五〇	二二八	三三、八四	一七、四七	

絲 平 旗 堀 入 榮 鹽 北 田 山 新 湊 哨
 和 後 江 船 埕 野 下 濱 船
 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町



桃 前 內 三 大 林 大 前 芥 過 戲 前 中
 子 峯 塊 德 港 雅 田 獅
 園 尾 惟 厝 港 官 埔 金 寮 子 甲 鎮 洲



昭和九年	三、七五三	二、四〇三	二、八四六	二〇三	八三	四三	一、二六二	六七二	八三	七四	九五	九八	七七
昭和十年	三、九七三	二、七五八	三、三六〇	一七四	四八	一〇	一、六三二	四七八	二〇六	二三二	三三	二四	六五七

◇ 汚物掃除屎尿汲取

(昭和十年中)

塵芥搬出區域内		屎尿搬出區域内	
戶數	人口	戶數	人口
一四八四三	六八、八一	一三、五〇五	七、七九五
市設塵箱	一二三二	公共便所	二四
私設塵箱	八四五	私設便所	七三三八
計	二、〇六六	計	七、三三三
塵芥搬出總量	一三、〇六四	屎尿汲取總量	一〇七、八二六

◇ 屎尿殺菌池

所在地	坪數
内惟	二、〇〇〇
大港	一、五〇〇
前金	一、五〇〇
内惟	四、〇〇〇
綠町	一、九九九
大港	四、〇〇〇
内惟	四、〇〇〇
戲獅甲	五、三、五〇
計	二四、三、四九

容 量	工 事 費	設 置 年 月
五〇〇 <small>石</small>	七六〇 <small>円</small>	大正十四年 三月二十六日
五〇〇	六二〇	同
五〇〇	六二〇	同
二,五〇〇	三,六一〇	昭 和 六 年 四 月 同
一,〇〇〇	一,七〇〇	同
二,五〇〇	三,一九〇	同
二,五〇〇	四,〇〇〇	昭 和 八 年 十 月
一,六五〇	六,四四〇	昭 和 十 年 三 月
二,一六五 <small>石</small>	二〇,九四 <small>円</small>	

◇ 撒水道路及下水溝

年 次	撒 水	公 共	下 水	溝
昭 和 九 年	自動 車 數	污 土 搬 出 手 曳 車	延 下 水 溝 長	下 水 污 土 搬 出 總 量
四	延 撒 水 道 長	二	三	四,二七八,九六〇
昭 和 十 年	四	二	三	四,六八九,三五三
	一七,九〇〇 <small>間</small>		三五,七六五 <small>間</small>	
	一八,六〇〇		三五,九六三	
	一〇一,一〇〇 <small>坪</small>			
	一三,〇〇〇			

◇ 埋火葬

第十四 水道

高雄市水道は明治四十三年臺灣總督府に於て計畫施設せられ之が維持經營は土木部の主管なりしが明治四十四年十月土木局となり更に大正二年總督府作業所主管たりしが大正八年七月官制廢止に伴ひ地方行政官廳たる臺南廳の主管に移り大正九年九月臺灣地方官々制改正の結果高雄州設置と同時に水道管理は高雄州に移管同十四年四月之れを高雄市へ移管せられたるものなり然るに當初に於ける水道は給水豫定人口四萬人、一日最大

年次	火葬場使用			火葬場使用區分			埋			葬 儀 車 用
	内地人	本島人	計	大 人	小 人	使用 人員	内地人	本島人	計	
昭和九年	三六人	三六人	七二人	三一人	四一人	二五一人	六一人	三六一人	四二一人	五七人
昭和十年	三二人	三六人	六八人	二一人	四一人	二五一人	六一人	三六一人	四二一人	五三人

給水量二十三萬六千立方尺なりしも市勢の膨脹に伴ひ給水能力に不足を來し大正七年同十四年同十五年の前後三回に互りて擴張工事を施行し給水豫定人口五萬人一日最大給水量三十萬立方尺に増大せしめたるも尙市勢は驚異的に伸展し放任を許さざる實狀に鑑み昭和四年更に第四期擴張計畫を樹て工費七十五萬四千餘圓を以て昭和五年十二月起同八年三月完成給水豫定人口十萬人一日最大給水量六十萬立方尺即ち一人一日最大消費量六立方尺擴張前の能力を殆ど倍加するに至りたるも市内に於ける配水裝置之れに伴はざるものありしを以て更に工費十二萬圓を投じ配水管線の増設工事を決行し昭和九年四月竣功を告げたるが近く配水池の擴張施設を行ひ以て送水能力六十萬立方尺の全機能を發揮せしめんとす而して昭和十一年度より全計量制に改むる計畫にて之が準備工作として昭和十年度に於て豫算九萬圓を計上し量水器の購入其他設備を了し昭和十年七月より取付工事に著手し頗る順調に進捗し年度内全部の取付を終了せり。

◇ 給水施設

區域とし新停車場を大港に決定し主要線街路幅員五十米、四十米、三十米其他區劃街路大小公園園道の配置、小公學校豫定地、官公署地區、運河、臨港鐵道等將來諸般施設の根本を確立したるものなり而して本計畫に依る面積を表示すれば次の如し。

都市計畫區域面積	計畫街路面積	計畫公園面積	運河面積	官公署地區面積	學校用地豫定地	人口一人當り面積
ヘクタール 四六三・三三	ヘクタール 四八五・七	ヘクタール 三三〇・六	ヘクタール 七三・四	ヘクタール 二七・七	ヘクタール 三四・四	平方米 八四

二、土 木

本市は新興港灣都市として商工業の發展著しく殊に近年諸産業の發達と南方進展政策とにより市街地の膨脹は著しく都市建設上急施を要する土木工事極めて多く道路の新設下水の改善、橋梁の補修等逐年豫算の膨脹を爲し、十年度に於ては幹線第一號路線幅員四十米延長五六〇米の都市計畫事業を完成し新停車場に通ずる將來の重要幹線なり其他道路鋪裝をなし交通衛生保安上萬全を期せり。

◇ 土木工事費

指 土木工事費 指 數	市 費 / 年 次	
		昭和五年
	昭和七年	昭和八年
	昭和九年	昭和十年
	計	
	三三,五〇三 ^円	三三,二四三 ^円
	二四,五六三 ^円	二六,二九四 ^円
	一〇六,二〇九 ^円	一四三,五四五 ^円
	七〇,九八六 ^円	
	一〇〇	九
	三七三	七八四
	三七三	三七
	四三五	

昭和十年度工事内譯

工 事 名	工 事 費	工 事 名	工 事 費
道 路 鋪 裝 工 事	一四,〇三〇 ^円	壽 海 水 浴 場 護 岸 修 繕 工 事	二,三〇〇 ^円
道 路 改 修 工 事	三,三六四	計	一四二,五四三
橋 梁 改 修 工 事	二,八八〇 ^円		

三、營繕

人口増加に伴ふ小公學校の新設竝に増築は逐年巨額の經費を要し、又市廳舎の新築諸準備成り總工費四十萬圓を以て著工することとなり將來國際港灣都市として面目を一新せんとす又始政四十週年記念大博覽會の開催を機として風光明眉の西子灣に高雄觀光館を設立し旅客の誘致又は市民の慰安場として利用せり。

◇營繕工事費

指 營繕工事費 數	市 年 次 費	
		昭和五年
	昭和七年	昭和八年
	昭和九年	昭和十年
	計	
	五、四〇九 <small>円</small>	五、七三三 <small>円</small>
100	八、七七九 <small>円</small>	三、八〇四 <small>円</small>
	七、一七二	七、四五
	八、三二三 <small>円</small>	一、六〇
	一、三、九四 <small>円</small>	二、三九
	七、四〇五 <small>円</small>	1

昭和十年度營繕工事内譯

第十六 消防機關

本市に於ける消防公設機關は高雄消防組唯一にして常備義務の消防手に依りて組織せられ警察監督の下に防火消防積極的の任務に服す風土と家屋の構造とに恵まれ臺灣は内地の火災消防に比し其の慘狀を見ること稀なりと雖も本市の如き南部臺灣特有の乾燥期たる十月より翌年四月の間に於て出火を見むか一失千仞の功を灰燼に歸するの慘事なしとせず今や新興都市として家屋建築廣樓櫺比する秋に方り消防機關の諸施設も亦急を要

工 事 名	工 事 費	工 事 名	工 事 費
小公學校々舎新築改築工事	八九八三七〇三 ^円	海水浴場プール新設工事	九、九九四〇六 ^円
市 廳 舎 新 築 工 事	五七三八九〇	職員宿舍新築修繕工事	八、四〇〇〇〇
小 賣 市 場 改 築 工 事	一、四六七七〇	自動車々庫其他工事一式	四、八三三七
市 營 住 宅 修 繕 工 事	二、六四四〇五	計	一三、九四四四四

するもの少しとせず。

◇ 消防機關

(昭和十年末)

組數	消防常備	組數	消防私設
一	八	一	一
長	組長	長	組長
一	一	一	一
副組長	副組長	副組長	副組長
二	二	二	二
小頭	小頭	小頭	小頭
二	二	二	二
副小頭	副小頭	副小頭	副小頭
二	二	二	二
係	係	係	係
二	二	二	二
係	係	係	係
一〇	一〇	一〇	一〇
係	係	係	係
八	八	八	八
係	係	係	係
六	六	六	六
手	手	手	手
三	三	三	三
計	計	計	計
五	五	五	五
技術	技術	技術	技術
二	二	二	二
事務	事務	事務	事務
一	一	一	一
自動	自動	自動	自動
二	二	二	二
蒸氣	蒸氣	蒸氣	蒸氣
一	一	一	一
手押	手押	手押	手押
五	五	五	五
自用	自用	自用	自用
一	一	一	一
貨物	貨物	貨物	貨物
一	一	一	一
組數	組數	組數	組數
一	一	一	一

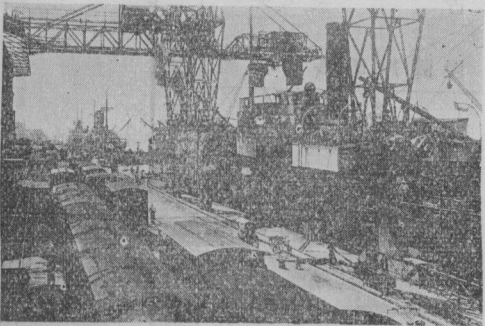
◇ 火災度數及被害

(昭和十年中)

火災度數	火災度數	火災度數	火災度數
七	七	七	七
死	死	死	死
二	二	二	二
傷	傷	傷	傷
二	二	二	二
禽畜	禽畜	禽畜	禽畜
一	一	一	一
住家の被害	住家の被害	住家の被害	住家の被害
被害戸數	被害戸數	被害戸數	被害戸數
一	一	一	一
棟數	棟數	棟數	棟數
一五	一五	一五	一五
坪數	坪數	坪數	坪數
五三三	五三三	五三三	五三三
損害	損害	損害	損害
一四〇三七	一四〇三七	一四〇三七	一四〇三七
非住家の被害	非住家の被害	非住家の被害	非住家の被害
棟數	棟數	棟數	棟數
九	九	九	九
坪數	坪數	坪數	坪數
一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
損害	損害	損害	損害
一〇、八六八	一〇、八六八	一〇、八六八	一〇、八六八
田野の被害	田野の被害	田野の被害	田野の被害
甲數	甲數	甲數	甲數
三	三	三	三
損害	損害	損害	損害
二二	二二	二二	二二
上記以外	上記以外	上記以外	上記以外
の財貨被害	の財貨被害	の財貨被害	の財貨被害
一〇五、一〇	一〇五、一〇	一〇五、一〇	一〇五、一〇
被害總額	被害總額	被害總額	被害總額
一三〇、〇一七	一三〇、〇一七	一三〇、〇一七	一三〇、〇一七

第十七 交通

本市は島都臺北を距る二三四哩、北方の門戶基隆港と相聯んで南北の二大要港を成し鐵道縱貫線の終點潮州線の起點として中南部臺灣唯一の貨物吞吐港たり南支南洋に直面し母國各港への距離に比し遙に近く航路も南支南洋は勿論母國朝鮮滿洲北支の主要港との定期も開け母國に對しては北端基隆港の便なるに及ばざるが故に旅客の連絡未だ充分ならずと雖も貨物本位の航路は主要各港間に拓かれ地理的に季節的に輸送内外通商の優位を占め港灣設備の改善島内産業の開發其他文化的施設向上に伴ひ商工業都市として港勢は逐年膨脹し



高雄港埠頭

南方漁場の開發消費市場の開拓と相俟つて本市生命線は高雄驛勢と其の消長を共にし交通運輸頗るに伸展しつゝあり。

◇高雄港、諸港間航程

安蘇花臺大馬同基	港
蓮板	
平澳港東埕公隆	名
	湮
二六 二四 一九 二七 二五 二五 二四 二二	數
同同同同同直西東	經由地
	航廻廻
名大神門博長鹿那	港
古	兒
屋阪戸司多崎島霸	名
	湮
一三 二四 一〇 九五 九〇 八五 八四 五〇	數
同同同同同同直	經由地
	航

廣 香 汕 厦 福 上 天 大 青 仁 釜 函 東 淡

東 港 頭 門 州 海 津 連 島 川 山 館 京 水

四〇五 三三五 二四〇 一六五 二三四 六四三 一、三三三 一、〇元 九〇五 九七〇 九三〇 一、六〇〇 一、三六〇 二〇五

同 同 同 同 同 同 通 福 同 同 同 同 同 同

航 州

コ ラ 彼 ス ス バ シ マ サ マ 盤 西 海 横
 ロ ン グ ン 南 マ ラ バ タ シ ン マ サ マ 盤 西 海 横
 ン ー ン ン ヤ ヤ ヤ ン ガ ポ ン ツ ン ダ ニ 谷 貢 防 濱
 ボ ン ン ン ヤ ヤ ヤ ル サ ン ラ 谷 貢 防 濱

三、三三五 二、九二〇 二、二四〇 二、二八〇 二、二五二 二、二六〇 一、七六〇 二、二五五 一、二六六 五五三 一、七八五 一、二五五 七九〇 一、三五五

香 シ 同 香 シ 同 香 マ 同 同 香 直 同 同 香 同
 ン ガ ポ ン ガ ポ ン ン ン ン ン 航 港
 港 ル 港 ル 港 ラ 港 港 港 港

◇軍艦入港

航路	高雄	仁川	清津	比律賓	爪哇
高雄	仁川	清津	比律賓	爪哇	吉隆
二	二	二	二	二	二
往：基隆・大連・鎮南浦	往：大連・基隆	往：鹿兒島・長崎・博多・清津	往：清津・博多・長崎・鹿兒島・基隆	往：高雄・マニラ・セブ	往：セブ・レガスピ・タバオ・マニラ・基隆
復：スラバヤ・マカサス・タワオ・香港・高雄	復：スラバヤ・マカサス・タワオ・香港・高雄	復：スラバヤ・マカサス・タワオ・香港・高雄	復：スラバヤ・マカサス・タワオ・香港・高雄	復：スラバヤ・マカサス・タワオ・香港・高雄	復：スラバヤ・マカサス・タワオ・香港・高雄

昭和十年		昭和九年	
帝 國	外 國	帝 國	外 國
隻數	噸數	隻數	噸數
一	一、二八五	一	一、二三五〇
隻數	噸數	隻數	噸數
七	一、七六三〇	七〇	一、七五四三
隻數	噸數	隻數	噸數
一	一、六四〇八	一	一、七五四三
隻數	噸數	隻數	噸數
一	一、二三五〇	七〇	一、七五四三
隻數	噸數	隻數	噸數
一	一、二三五〇	七〇	一、七五四三

◇ 船舶入港

昭和十年		昭和九年	
内國船	外國船	内國船	外國船
隻數	噸數	隻數	噸數
一、一〇四	三、三九六・六三	一、〇三六	三、〇六五・九六五
計		計	
四二	一、四八九・七	四	二、四五五・七
隻數	噸數	隻數	噸數
一、二四五	三、五八五・八九	一、〇八〇	三、二八〇・五三

◇ 小形汽船以下入港

(昭和十年中)

小形汽船 (三五〇噸以下)		西洋形帆船	發動機船	外國貿易 戎克船	支那形帆船	計
隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數
六〇	二、八三三	九	一、二八六	一、三七五	七四、五五五	三六
噸數		噸數		噸數		噸數
				一、四六九	二、三八九	一九八五・六
						五〇二・六三、六五七・五七七

◇ 船客の出入

◇ 鐵道旅客

年次	入			出			計
	內地	沿岸	外國	內地	沿岸	外國	
昭和九年	一九三	二三、九五	六、〇三〇	五七二	二二、三八五	四、六二六	二六、五七三
昭和十年	二〇六	二七、三〇三	六、一八	五五五	二三、一九五	五、三四九	二九、〇六九
增減	一三	三、三七八	九	△ 四七	一、八二〇	七三三	二、四九六
							五、九八五

年次	乘車		降車		計	指數
	高雄驛	三塊厝驛	高雄驛	三塊厝驛		
昭和九年	四七一、七九	八八、五三	四八五、七五	六七、三二	五五三、〇九六	一〇〇
昭和十年	四五四、〇八	一七三、五六三	四八八、六八九	一六五、三七〇	六五四、〇五九	一二五

區分局名	預入・振出・拂込			拂戻・拂渡・拂出			計
	郵便貯金	郵便爲替	振替貯金	郵便貯金	郵便爲替	振替貯金	
高雄局	三、四七六 <small>件</small>	三、八一三 <small>件</small>	三、三六九 <small>件</small>	一、三、四六九 <small>件</small>	三、三、四二三 <small>件</small>	二、二、六四二 <small>件</small>	一、四〇、八二七 <small>件</small>
山下局	八、八七六	一、三、三〇四	六、六三八	六、三、五八	三、九四九	二、六〇	三、九、三八五
入船局	一、四、七一九	一、六、六二六	一、一、五三一	七、七、二三	五、三、三三	三、九、五	一、三、四、五〇
旗後出張所	八、一、六三三	四、五、五一	二、四、五〇	三、五、四九	一、四、一八	九、四	五、〇、六一
計	六、三、二、三六	七、三、六〇七	五、三、二、九九	一、八、九、二、四三	三、一、〇、九九	三、三、一、二六	三、三、九、〇
							六、七、七〇一
							二、五、六、七、四三

◇ 郵便貯金及爲替

(昭和十年中)

區分局名	預入・振出・拂込			拂戻・拂渡・拂出			合計
	郵便貯金	郵便爲替	振替貯金	郵便貯金	郵便爲替	振替貯金	
高雄局	四、七、〇、〇九二 <small>件</small>	一、〇、八、六、四三八 <small>件</small>	一、〇、九、一、〇、三、四三三 <small>件</small>	四、〇、八、三、九五 <small>件</small>	八、二、四、三、四九 <small>件</small>	四、三、一、二、六三二 <small>件</small>	一、六、六、四、九〇七 <small>件</small>
							四、三、二、四、七〇 <small>件</small>

山下局	二〇四、九六〇	二四七、〇二一	一四〇、六八三	五九二、六六四	一九二、三三四	七三三、二九八	一五、五〇六	二八一、三三八	八七三、八〇三
入船局	三三〇、一五三	三六九、二一七	二九三、二一八	九九三、四八八	二八八、三七八	一二四、七三三	二四、八一六	四三七、九一七	一四三、〇四五
旗後出張所	九三、二二六	一〇七、八八九	四三、五二九	二四三、六三四	一〇〇、三五九	二五八、二六六	八、三三八	一三四、五二三	三七八、二四七
計	一、〇九七、四三〇	一、八一〇、四六五	一、五六八、四六四	四、四七六、三四九	九八九、四六六	一、〇三八、一九六	四八〇、八一三	五〇八、四七五	六、九八四、八三四

◇ 通常郵便物

(昭和十年中)

區分局名	引		受		配		達	
	普通	書留	計	普通	書留	計	計	
高雄局	三、六七五、九八九 <small>件</small>	八一、二七六 <small>件</small>	三、七五七、一六五 <small>件</small>	六、〇八〇、六五一 <small>件</small>	一、三三三、四〇三 <small>件</small>	六、三二四、〇五三 <small>件</small>	九、九七一、二二八 <small>件</small>	
山下局	—	三八、三二九	三八、三二九	—	—	—	三八、三二九	
入船局	—	一六七八三	一六七八三	—	—	—	一六七八三	
旗後出張所	—	三、六九〇	三、六九〇	—	—	—	三、六九〇	
計	三、六七五、九八九	一三九、八七八	三八一、五八六七	六、〇八〇、六五一	一、三三三、四〇三	六、二二四、〇五三	一〇、〇二九、九三〇	

☐ 小包郵便物

(昭和十年中)

區分局名	引受		配達		計
	普通	書留	普通	書留	
高雄局	一三六九七 <small>件</small>	一〇二四三 <small>件</small>	二五五四〇 <small>件</small>	三三三五〇 <small>件</small>	七二八三〇 <small>件</small>
山下局	三四七三	一九三五			五三九八
入船局	四九五〇	三四三七			八三七七
旗後出張所	七三三	一二六〇			一八八二
計	三三八四三	一六七五五	二五五四〇	三三三五〇	八八四八七

☐ 電話、郵便函、切手賣捌所

(昭和十年中)

區分局名	電話加入者數		公衆電話設置數	郵便函設置數	切手賣捌所數
	區域內	區域外			
計					

區分局名	恩給及扶助料		郵便年金		簡易保險	
	口數	金額	件數	金額	件數	保險金
高雄局	八七	八四、六五 <small>門</small>	六 <small>件</small>	二、七九〇 <small>門</small>	一三、三八 <small>件</small>	三、二一、七八 <small>門</small>
山下局	二一	一〇、二五	一	一	一八五	四七、七八
入船局	三九	一三、三九	一	一	二五	五五、九〇七
旗後出張所	四	三、三七	一	一	二八	二七、三八

◇ 恩給、扶助料、郵便年金、簡易保險

區分局名	恩給及扶助料		郵便年金		簡易保險	
	口數	金額	件數	金額	件數	保險金
高雄局	一、二六	四 <small>門</small>	一、三六 <small>簡</small>	三 <small>簡所</small>	五 <small>簡所</small>	四九 <small>簡所</small>
山下局	一	一	一	一	一	二六
入船局	一	一	一	一	一	二
旗後出張所	一、二六	四	一、三六	六	五	七六

計

一一九〇

一一一四六〇

一八

二七九〇

一三、八八七

三、三四三、七九三

第十八 官公署其の

◇官、公署、學校

名	稱	所在地	創設年月	電	話
高雄州廳	前	金	大正九年九月		三、二〇二
高雄衛戍分院	壽	町	大正二年一月		三、〇五五
高雄海洋觀測所	同		昭和六年四月		三、〇六六
高雄州港務部	哨船町	二丁目	大正十三年十二月		二、三五八
高雄警察署	湊町	一丁目	同		二、二三三
高雄郵便局	同		大正二年十一月		二、〇三三
高雄市役所	同	四丁目	大正十三年十二月		三、二八一

高雄 驛	新濱町一丁目	明治三十三年十一月	三、三三二
高雄 機關庫	同		呼出 三、三三一
高雄 車掌區	同	昭和八年十二月	二七
米穀檢查所高雄出張所	同 二丁目		同
陸軍運輸部基隆出張所 高雄營業囑託所	同 三丁目		二、五四
高雄 稅關	同	昭和九年七月	三、三二一
高雄海事出張所	同	昭和二年九月	二、三五
植物檢查所高雄分所	同		二、三三六
高雄 通信區	山下町一丁目		三、〇一七
山下町郵便局	同		呼出 三、三三一
高雄 醫院	同 三丁目		一八
臺南地方法院高雄支部	同	昭和八年三月	三、四七一
臺南地方法院高雄檢察局	同		二、四〇四
			二、八七一
			二、〇三三

田町驛
 高雄鐵道工場
 高雄保線區
 肥料檢查所高雄出張所
 入船町郵便局
 高雄檢車所
 遞信部技術官駐在所
 鳳梨罐詰高雄檢查所
 專賣局高雄支局
 高雄燈臺
 高雄築港出張所
 旗後郵便出張所
 鳳山海軍無線電信所高雄受信所

田町三丁目	昭和四年十月	呼出 三三三	二八三
鹽埕町一丁目			二八三
同		同	二七
榮町一丁目	昭和二年七月		二七八
入船町一丁目	昭和五年五月		三四七
堀江町一丁目		呼出 三三三	三三
同 二丁目			二二五〇
同 四丁目	昭和三年一月		三三四一
同	大正十一年四月		三一七
旗後町一丁目			二八四九
平和町一丁目			三三七
同	明治三十三年十二月		二八〇〇
三塊厝	大正十五年三月		三三八二

三塊 厝 驛
 臺南刑務所高雄支所
 高雄第一尋常高等小學校
 私立高雄幼稚園
 高雄商工專修學校
 高雄第二尋常高等小學校
 高雄第一公學校
 私立平和幼稚園
 高雄第一公學校中州分教場
 高雄第二公學校
 高雄第二公學校前鎮分教場
 高雄第三公學校
 高雄第四公學校

前	三	前	苓	中	同	平	堀	同	同	湊	林	同
金	塊	鎮	雅	洲		和	江			町	德	
			寮			町	五			四	官	
						四	丁			目		
						目	目					
昭	大	大	明	大	大	明	大	昭	大	明	昭	明
和	正	正	治	正	正	治	正	和	正	治	和	治
十	九	十	三	十	十	三	十	十	五	四	八	四
年	年	年	十	年	年	十	年	年	年	年	年	十
四	四	四	七	四	五	一	五	四	五	五	三	一
月	月	月	年	月	月	年	月	月	月	月	月	年
			六			十						二
			月			月						月
												月
												二
												九
												八
												一
												一

三〇八三
 二二五
 三二一三
 二八一九
 二八一九
 三二一八
 二九三
 二四五
 二二四
 二九八
 一

◇ 銀行會社

名	稱	所在地	創設年月	電	話
私立高雄濟世幼稚園		入船町二丁目	昭和八年四月		
內惟公學校		內惟	大正九年四月		二九六
內惟公學校桃子園分教場		桃子園	大正十一年四月		
高雄高等女學校		苓雅寮	大正十三年四月		三三三
高雄中學校		三塊厝	大正十一年四月		三一五
臺灣銀行高雄支店		湊町一丁目	明治三十三年九月		二〇〇一
彰化銀行高雄支店		同 二丁目	大正八年七月		二六四
臺灣商工銀行高雄支店		新濱町一丁目	大正元年八月		二〇五
三和銀行高雄支店		同	昭和八年十二月		二〇三五

打狗土地株式會社	同	濠町二丁目	明治四十五年七月	二、六四
合資會社平田商行	同		大正十三年二月	三、四八
合資會社山半商店	同		昭和三年四月	二、三四
臺灣地所建物株式會社高雄出張所	同	四丁目	明治四十年四月	二、三〇五
日本食料工業株式會社濠町工場	同	五丁目		二、三〇三
株式會社日東商船組	新濱町一丁目		昭和七年十一月	三、三五
國際通運株式會社高雄支店	同		昭和五年四月	二、〇七
臺灣運輸株式會社高雄支店	同		昭和八年九月	三、三六
株式會社國際運輸組	同		昭和四年十二月	二、三五
臺灣採藤株式會社	同		大正十五年七月	二、一八九
三井物產株式會社高雄支店	同		昭和三年九月	三、三一
近海郵船株式會社高雄出張員	同			三、三一
株式會社安部幸商店高雄支店	同		昭和六年十一月	二、五五

南部青果株式會社	高雄魚市株式會社	大阪商船株式會社高雄支店	高雄青果株式會社	株式會社昭和商會高雄出張所	臺灣倉庫株式會社高雄支店	日本食料工業株式會社 高雄出張所 高雄工場	臺灣南部無盡株式會社高雄支店	合資會社南報商事社	臺灣電力株式會社高雄營業所	高雄自動車合資會社	南部建築相互株式會社	淺野セメント株式會社 臺灣支店 臺灣工場
----------	----------	--------------	----------	---------------	--------------	-----------------------------	----------------	-----------	---------------	-----------	------------	----------------------------

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	二丁目	三丁目				山下町一丁目		四丁目			田町一丁目	三丁目
昭和八年七月	大正十五年三月	明治三十三年一月	昭和七年九月	大正五年十一月	大正十五年十二月			昭和三年六月	昭和五年八月	大正六年七月		
三〇四九	三三〇六	三三三二	三一五五	三三二六	二六四〇	三〇〇五	二二一七	二二〇三	三三〇八	三三二一		

高雄中央卸市場株式會社
 株式會社鹽埕座
 高雄印刷合資會社
 高雄製冰株式會社
 屏東信託株式會社高雄支店
 合資會社金鷄館
 高雄共榮自動車株式會社
 臺灣土地建物株式會社高雄出張所
 株式會社林兼商店高雄出張所
 株式會社臺灣鐵工所
 鹽水港製糖株式會社高雄酒精工場
 臺灣農具製造株式會社
 大日株式會社

北野町三丁目	同	鹽埕町一丁目	同	同	同	同	同	同	同
昭 和 八 年 四 月	昭 和 五 年 四 月	昭 和 三 年 十 一 月	大 正 十 四 年 二 月	昭 和 五 年 五 月	昭 和 三 年 十 二 月	大 正 十 二 年 十 一 月	大 正 八 年 十 一 月	昭 和 四 年 十 一 月	昭 和 五 年 十 月

二、九三
 二、七三
 三、二八
 二、五〇八
 三、三一九
 二、三一九
 三、三四三
 二、七三九
 三、三六三
 三、三三八
 三、三一
 三、三六
 二、七三

內外食品株式會社高雄工場
 高雄劇場株式會社
 三菱商事株式會社高雄支店
 臺灣產業株式會社高雄出張所
 辰馬汽船株式會社高雄出張員
 大連汽船株式會社高雄出張員
 高雄雜貨卸株式會社
 臺灣合同鳳梨株式會社
 日本炭酸株式會社
 陳中和物產株式會社
 高雄酒精株式會社
 東洋製罐株式會社高雄工場
 臺灣煉瓦株式會社高雄工場

同	堀江町三丁目	大正十年八月
同		昭和十年三月
同		
同		
同		
同	四丁目	昭和九年三月
同		昭和十年六月
同		昭和八年七月
三	塊 厝	大正十一年三月
同		大正二年二月
同		
同		

三〇〇三
 二二五六
 二二三八
 二二三五
 三二四七
 三二四七
 三二四七
 三〇七六
 三一五三
 二四六一
 二〇〇八
 二二八五
 二二三〇
 二〇四一

◇組合其他

名	稱	所在地	創設年月	電話
高雄州農會		前金		三、二〇四
高雄州水產會		同		三、二〇一
曹公水利組合		同		三、二〇二
高雄漁業發動機漁船組合		哨船町一丁目	昭和七年四月	—
高雄水先組合		同 三丁目		三、〇六三
高雄醫會		湊町一丁目		二、五三四
高雄沖商組合		同	昭和十年八月	二、三五六
高雄實業新興會		同		二、五三四
郵便局購買組合		同		二、七九八
高雄金物商組合		同		二、〇四三

高雄海人草採取組合	同	二丁目		三四五六
高雄發動機船主組合	同	三丁目	昭和七年十月	二九七八
高雄有隣信用組合	同	四丁目	昭和七年十月	三三八二
高雄市畜產組合	同		昭和七年十一月	三三八二
高雄漁業組合	同		大正十三年十二月	二二二三
高雄漁業信用購買利用組合	同		昭和二年九月	二二二三
帝國在鄉軍人會高雄分會	同			三三八二
日本赤十字社高雄市委員部	同			三三八二
愛國婦人會高雄市分會	同			三三八二
高雄信用組合	新濱町一丁目		大正二年十二月	二二二六
高雄吳服商組合	同			二二二三
南部輸出貿易組合	同			一
高雄宿屋業組合	同		昭和十年十二月	二二〇三

高雄海友會
 高雄建築信用購買利用組合
 高雄魚市場仲買人組合
 高雄材木商組合
 高雄鮮魚輸移出組合
 高雄州米穀信用購買販賣利用組合
 高雄州米穀商同業組合
 高雄西瓜出荷組合
 高雄勞働需給組合
 高雄州青果同業組合
 高雄驛構内作業組合
 臺灣青果同業組合聯合會高雄出張所
 高雄理髮業組合

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 山下町一丁目

大正十年九月
 大正十五年四月
 昭和十年十月
 昭和三年九月
 昭和七年十月
 大正八年八月

二、三、七
 三、三、五、一
 二、〇、七、五
 二、〇、五、一
 二、〇、七、五
 三、四、三、四
 三、一、三、一
 三、〇、四、九
 二、七、四
 三、〇、六、〇
 三、一、三、三
 二、九、五、八

高雄貸座敷組合	同	五丁目		二九〇七
高雄飲食店組合	同			二六二三
高雄購買組合	入船町二丁目		大正十一年七月	二二六九
高雄土木建築業組合	同		昭和七年八月	二二三四
臺灣鐵工所購買組合	同	五丁目	大正十一年二月	二九四八
高雄店舖住宅信用利用組合	同		昭和七年十一月	三〇七六
酒類賣捌人組合	同		昭和三年八月	三三五〇
高雄酒類・煙草小賣人組合	同		昭和六年九月	三一七
酒類煙草小賣人組合聯合會	同		昭和六年九月	三一七
高砂信用組合	旗後町四丁目		大正三年一月	二八三六
旗後漁業組合	平和町一丁目		大正十四年六月	二八三三
築港購買組合	同	四丁目		二八〇一
中洲漁業組合	中洲		大正十四年十一月	二二八七